

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	福岡財務支局長
【提出日】	平成30年8月24日
【事業年度】	第22期（自平成29年6月1日至平成30年5月31日）
【会社名】	メディアファイブ株式会社
【英訳名】	Media Five Co.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 上野 英理也
【本店の所在の場所】	福岡県福岡市中央区薬院一丁目1番1号
【電話番号】	092-762-0555
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 河野 活
【最寄りの連絡場所】	福岡県福岡市中央区薬院一丁目1番1号
【電話番号】	092-762-0555
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 河野 活
【縦覧に供する場所】	証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡市中央区天神二丁目14番2号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第18期	第19期	第20期	第21期	第22期
決算年月	平成26年 5 月	平成27年 5 月	平成28年 5 月	平成29年 5 月	平成30年 5 月
売上高 (千円)	1,048,849	1,092,989	1,278,568	1,360,926	1,417,063
経常利益 (千円)	27,098	42,248	68,378	33,006	57,821
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	16,855	18,031	59,751	13,644	37,123
包括利益 (千円)	16,588	22,194	84,825	12,184	40,210
純資産額 (千円)	285,283	307,477	400,303	403,724	435,299
総資産額 (千円)	467,873	502,439	612,030	606,057	625,562
1株当たり純資産額 (円)	335.17	360.33	463.38	467.49	504.05
1株当たり当期純利益金額 (円)	19.89	21.27	70.49	15.80	42.99
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	15.58	40.49
自己資本比率 (%)	60.7	60.8	65.4	66.6	69.6
自己資本利益率 (%)	6.1	6.1	16.9	3.4	8.8
株価収益率 (倍)	15.1	19.9	7.0	34.5	20.9
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	68,132	36,954	38,745	14,240	18,981
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	4,480	3,964	13,514	40,957	7,862
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	13,164	14,664	1,134	14,888	14,121
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	275,234	293,559	317,656	276,051	273,049
従業員数 (人)	161	170	197	195	198
[外、平均契約社員数]	[17]	[9]	[7]	[11]	[10]

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、第18期、第19期及び第20期においては希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3 従業員数は就業人員であり、契約社員数は、年間の平均人員を [ ] 外数で記載しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第18期	第19期	第20期	第21期	第22期
決算年月	平成26年 5 月	平成27年 5 月	平成28年 5 月	平成29年 5 月	平成30年 5 月
売上高 (千円)	956,550	1,011,806	1,212,235	1,291,383	1,316,548
経常利益 (千円)	17,747	38,447	72,952	29,613	49,557
当期純利益 (千円)	9,999	16,075	59,306	10,889	30,547
資本金 (千円)	175,825	175,825	179,825	179,825	179,825
発行済株式総数 (株)	893,600	893,600	909,600	909,600	909,600
純資産額 (千円)	269,911	289,283	383,593	384,386	409,386
総資産額 (千円)	426,246	471,162	581,504	574,490	584,576
1株当たり純資産額 (円)	318.44	341.30	444.18	445.10	474.05
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	- (-)	- (-)	10.00 (-)	10.00 (-)	10.00 (-)
1株当たり当期純利益金額 (円)	11.80	18.97	69.96	12.61	35.37
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	12.43	33.32
自己資本比率 (%)	63.3	61.4	66.0	66.9	70.0
自己資本利益率 (%)	3.8	5.7	17.6	2.8	7.7
株価収益率 (倍)	25.4	22.4	7.0	43.2	25.4
配当性向 (%)	-	-	14.3	63.3	23.3
従業員数 (人)	155	164	196	194	197
[外、平均契約社員数]	[17]	[9]	[7]	[11]	[10]

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、第18期、第19期及び第20期においては希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

3 従業員数は就業人員であり、契約社員数は、年間の平均人員を [ ] 外数で記載しております。

4 第20期の1株当たり配当額10円には、創立20周年記念配当5円を含んでおります。

## 2【沿革】

年月	事項
平成8年6月	福岡県福岡市東区西戸崎において、ソフトウェアの受託開発（現 ソリューション事業B t o Cソリューショングループ）を目的として有限会社メディアファイブを設立（資本金5,000千円）。
平成9年8月	メディアファイブ株式会社に組織変更。
平成12年12月	本社を福岡県福岡市中央区天神へ移転。 一般労働者派遣事業許可を取得（許可・指定番号：派40 - 01 - 0197）。 I Tエンジニアの提供（現 ソリューション事業B t o Bソリューショングループ）を開始。
平成13年1月	I Tエンジニア育成研修（有料、当社呼称：虎の穴研修）を開始（平成16年12月より無料化し、平成17年5月に有料研修サービス終了）。
平成16年3月	ネットワークセキュリティ製品のサポート窓口業務受託、サーバの提供及び保守・運用サービス（現 ソリューション事業B t o Cソリューショングループ）を開始。
平成18年10月	福岡証券取引所Q - B o a r d市場に株式を上場。
平成19年5月	プライバシーマーク付与認定（認定番号：第18820138（06）号）。
平成19年11月	東京都千代田区麹町に東京営業所を新設。
平成20年1月	企業向けI Tエンジニア育成事業を開始。
平成20年11月	一般個人向けI Tエンジニア育成事業を開始。
平成22年9月	オフィス巡回型エンジニアリングサービス「OFFICE DOCTOR」（現 ソリューション事業B t o Cソリューショングループ）を開始。
平成22年10月	本社を福岡県福岡市中央区薬院へ移転。
平成22年11月	東京営業所を東京都港区東新橋へ移転。I Tプロ育成スクール新橋校を開設。
平成22年12月	ソリューション事業B t o Cソリューショングループにおいて「ISO/IEC 27001:2005」認証取得（審査登録番号：IA100814）。
平成23年7月	株式会社匠工房の株式を取得。子会社化。
平成24年5月	東京営業所を同地域内（東京都港区東新橋）へ移転。I Tプロ育成スクール新橋校を閉鎖。
平成24年7月	I Tプロ育成スクール天神校を閉鎖。I Tエンジニア育成研修（虎の穴研修）の再始動。
平成25年8月	株式会社梓書院と業務提携。合併会社として株式会社ダブルスキルを設立。
平成28年3月	株式会社ダブルスキル解散。
平成28年4月	「スイス料理ハウゼ」の店舗運営（飲食事業）を開始。
平成29年5月	「メディアファイブ保育園 薬院」を開園。

### 3【事業の内容】

当社グループは、当社及び子会社1社から構成されており、主に九州及び東京地域のコンピュータ会社及び一般企業等を対象として、ソフトウェア開発に関するITエンジニアの提供及び業務受託を主事業としております。

当社グループの特徴としては、新卒者やIT業界未経験者を育成本部のITエンジニア育成研修（当社呼称：虎の穴研修）で育成し、従業員又は契約社員として雇用することで、安定的に多くのITエンジニアを提供できる点が挙げられます。また、研修においては、短期間（OJTを含み約6ヶ月程度）で、顧客が求めるITエンジニアの養成が可能な独自の研修システムを有している点も挙げられます。主な研修項目は、以下のとおりであります。

- ・テクニカルスキル：実践を想定したプログラミング・ネットワーク技術の習得
- ・ヒューマンスキル：プロジェクトの遂行上重要であるコミュニケーション能力・モラルの養成

事業の種類は、以下のとおりであります。

なお、次の5部門は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

#### (1) ソリューション事業B to Bソリューショングループ

ソリューション事業B to Bソリューショングループは、プログラマ、システムエンジニア等のITエンジニアを顧客へ提供し、業務支援を行う事業です。主な対象業務はプログラム製造業務、ネットワーク構築及び保守・運用業務等であります。対象システムは多岐にわたる業務用システムを中心とし、使用する開発言語も多種多様であります。受注形態は「役務提供契約」、労働者派遣法（許可・指定番号：派40-01-0197）に基づく「人材派遣契約」があります。

#### (2) ソリューション事業運用・サポートグループ

ソリューション事業運用・サポートグループは、東京地区を中心に、大規模な基幹システムの運用・サポート業務に従事しており、高スキルを背景とした高収益性グループであります。受注形態は「役務提供契約」、労働者派遣法（許可・指定番号：派40-01-0197）に基づく「人材派遣契約」があります。

#### (3) ソリューション事業B to Cソリューショングループ

ソリューション事業B to Cソリューショングループは、顧客が要求するシステムについて、ソフトウェア開発を受託する事業と、OFFICE DOCTORを始めとする保守・運用サービスの提供及びサーバの提供等です。ソフトウェア開発の対象システムはWeb系の各種ネットワークシステム、業務系アプリケーションシステム、Webサイト制作等で、開発言語はJavaやPHP等顧客ニーズに合わせた言語が主流であります。

ソフトウェア開発の受注形態は、顧客から提示される仕様書に従ってソフトウェアを開発・納品する一括請負契約であり、保守・運用サービスの提供及びサーバの提供については、受注形態は保守・製品販売契約であります。

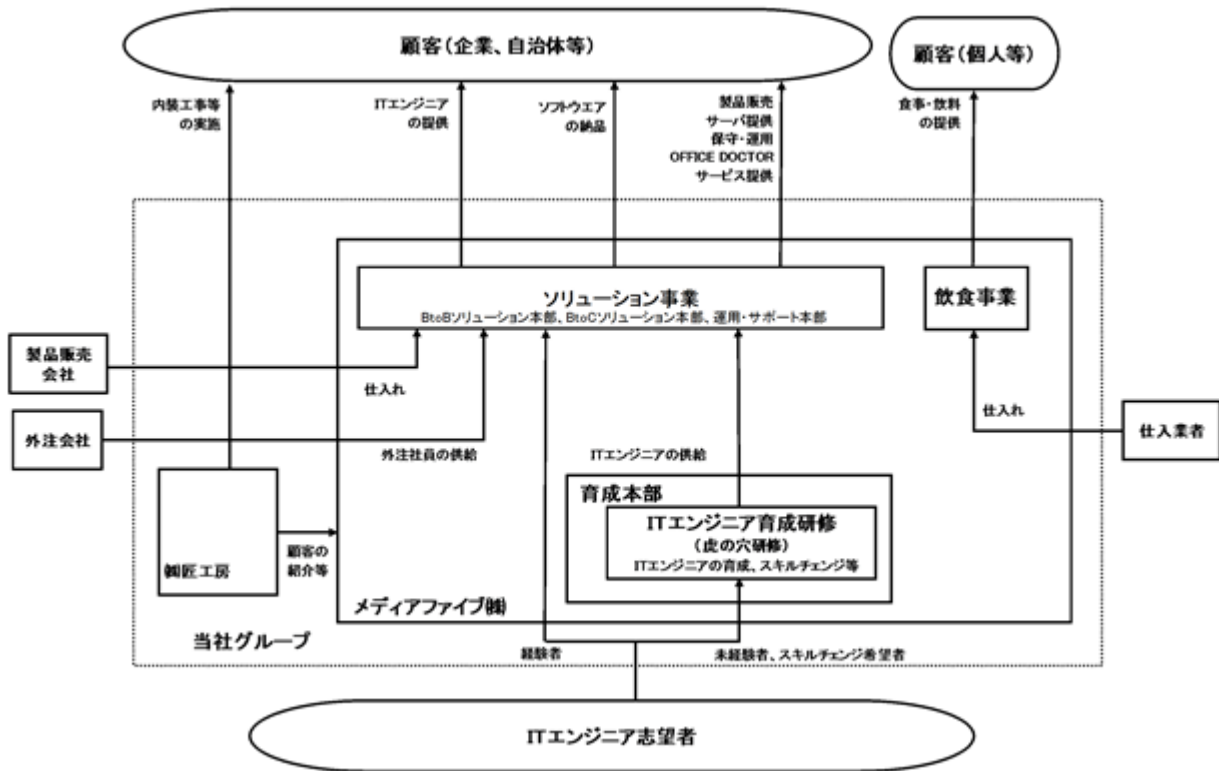
#### (4) 工事関連事業

工事関連事業は、当社の連結子会社である株式会社匠工房による、各種テナント・賃貸ビル等の建設設計・管理並びに施工・内装工事・外装工事等を行う事業であり、オフィスのIT環境構築の提案などを手がけております。

#### (5) 飲食事業

飲食事業は、スイス料理ハウゼの店舗運営に関する事業であります。

以上の事業をまとめると、以下のとおりとなります。  
 (事業系統図)



#### 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社匠工房	福岡県福岡市博多区	10	工事関連事業	100	当社の内装の発注。 事務の請負。 役員の兼任あり。

(注) 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。

#### 5【従業員の状況】

##### (1) 連結会社の状況

平成30年5月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
ソリューション事業B to Bソリューショングループ	142 [ 4 ]
ソリューション事業運用・サポートグループ	29 [ - ]
ソリューション事業B to Cソリューショングループ	7 [ - ]
工事関連事業	1 [ - ]
飲食事業	- [ 5 ]
報告セグメント計	179 [ 9 ]
全社(共通)	19 [ 1 ]
合計	198 [ 10 ]

(注) 1 従業員数は就業人員であり、契約社員数は、年間の平均人員を [ ] 外数で記載しております。  
2 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

平成30年5月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
197 [ 10 ]	32.2	5.0	3,969

セグメントの名称	従業員数(人)
ソリューション事業B to Bソリューショングループ	142 [ 4 ]
ソリューション事業運用・サポートグループ	29 [ - ]
ソリューション事業B to Cソリューショングループ	7 [ - ]
飲食事業	0 [ 5 ]
報告セグメント計	178 [ 9 ]
全社(共通)	19 [ 1 ]
合計	197 [ 10 ]

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、契約社員数は、年間の平均人員を [ ] 外数で記載しております。  
 2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
 3 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。



## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社グループは当社及び連結子会社1社で構成されております。

当社は、「優秀なエンジニアを九州・福岡から輩出し、最高のサービスを顧客に提供することにより、IT技術を文化として広く世界へ伝達する」という企業理念のもと、主に九州一円より若く活力のある人材を活用し、当社独自のIT専門教育を施しITエンジニアを育成することに取り組んでおります。

今後もITエンジニアの育成を通じて、企業価値の向上に努めると共に、九州・福岡の人的価値の向上及び地域経済の発展に寄与することを目指したいと考えております。

連結子会社である株式会社匠工房は、福岡県の各種テナント、賃貸ビル等の内装工事を主に行い、快適なオフィス環境作りに取り組んでおります。

景気の動向や経済環境としては依然として不透明な部分もありますが、当社独自のITエンジニア育成研修制度を柱とした人材育成を強みとし、高度IT人材の育成、当社グループによるワンストップ型ソリューションの提案などを行い、お客様の囲い込み・シェアの拡大を図ってまいります。

#### (2) 目標とする経営指標

当社グループは、ITエンジニアに特化した人材の提供とシステムの受託開発を行っており、高い収益性で業績を伸ばしていくのが特徴です。収益指標的には、売上総利益率を当社グループの事業の中心となるソリューション事業で32%を目標にしております。また、ITエンジニアの稼働率の向上を重要視しており、ソリューション事業で95%を目標にしております。稼働率を向上させる方策として、全従業員のITスキルの把握及び市場ニーズに応じた教育訓練を継続的に実施しております。また、従業員の人事評価基準に業務内外を問わないサービス・ホスピタリティー精神、営業マインド、幅広い技術知識の3要素を盛り込み人間力向上にも取り組んでおります。

工事関連事業の収益指標としては、材料仕入及び外注先の選定を厳密に行い、売上総利益率27%を目標にしております。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、人材の確保及びITエンジニアを中心とする人材に対して積極的に様々な投資を行い、業界での優位性を確保できる強いエンジニア集団を構築することが今後の事業展開に不可欠だと考えております。また、優秀な人材の確保のためには、技術力・能力に見合った報酬の設定及び生活にゆとりのある労働環境が必要だと考えており、これらを実現するためには、社員へキャリアプランを明示し、適正な指導を行い、スキルアップを行っていくことが正しい道だという信念を持っております。社員の能力向上及び能力が十分発揮できる労働環境を整え、お客様の満足度の向上を図ることで、業容の拡大に繋がりたいと考えております。

#### (4) 会社の対処すべき課題

当社グループの主要事業であるソリューション事業を取り巻く情報サービス業界を全般的にながめると、競争激化の傾向にあります。当社グループが優位性を確保するためには、以下のような課題に対処していく必要があると考えております。

##### 人材の確保

当社グループの主要事業であるソリューション事業においては、技術の高度化やシステムの複雑化に対応できる優秀な人材の確保が必要であると認識しております。

当社グループは、このような課題に対処するために、採用の強化、教育の強化、優秀な人材の確保に努める方針を掲げております。採用の強化に関しましては、企業ブランドを確立し、マスメディアでの広告やホームページにおいて当社グループの特徴・強みや、適正な労務管理、キャリア育成の優位性などを積極的にアピールし、採用活動を行ってまいります。教育の強化に関しましては、ITエンジニアとしての技術的側面の教育及びサービス力向上のための育成に注力してまいります。優秀な人材の確保に関しましては、更なる雇用条件の改善や実力主義かつ福利厚生の充実した給与体系の整備を行ってまいります。

##### 営業・採用地域の拡大

当社グループは、福岡地区と東京地区を中心に営業活動を行っておりますが、稼働しているITエンジニアの約40%が福岡県、約60%が東京都・神奈川県に集中しております。経済産業省が公表している地域別のソフトウェア業務の売上高は、東京都・神奈川県に約70%が集中しているという事実から考えると地域依存リスクが高く、今後の収益拡大が限定的になる可能性があるかと認識しております。

当社グループは、このような課題に対処するために、平成19年11月に東京営業所を開設し、首都圏を中心に営業活動を強化しております。また、平成26年6月1日より、東京地区を中心に運用・サポート業務の拡大を図る目的で「運用・サポート本部」を設立いたしました。当面は、育成の拠点は、福岡県福岡市を中心に行うことを

考えておりますが、採用におきましては、福岡地区及び東京地区共に強化をはかり、なおかつITエンジニアのキャリアプランを考慮しながら、人員配置を計画的に実施し、更なる業容の拡大に努めてまいりたいと考えております。

#### プロジェクト管理の強化

当社グループのソリューション事業の中でも受託開発案件においては、顧客の要求する品質・性能のソフトウェアを定められた期日に納める必要があるため、生産工程の非効率化や工程遅延により、プロジェクト（案件）の採算性が悪化する可能性があることを認識しております。

当社グループは、このような課題に対処するために、過去の失敗事例やノウハウを蓄積したマニュアルの閲覧・徹底、見積りの精度向上、進捗会議の開催頻度の増加等により、プロジェクト管理の強化に取り組んでいく方針であります。

#### 採算性の高い案件の獲得

当社グループの主要事業であるソリューション事業の中でも受託開発案件においては、上記の採算性悪化リスクはあるものの、グループ内での生産性を高めることで、高い利益率を確保できる可能性があるだけでなく、プロジェクトリーダークラスのITエンジニア育成及びITエンジニアの帰属意識の醸成に良好な影響を与えると考えております。したがって、今後の企業価値向上のためには、受託開発案件も積極的に取り込んでいく必要があることを認識しております。

当社グループは、このような課題に対処するために、受託開発案件の獲得及びOFFICE DOCTORサービスの推進に力を注ぐため営業力の強化を行うとともに、ITエンジニアの技術力・サービス力・営業力をさらに高めていきたいと考えております。

## 2【事業等のリスク】

以下において、当社グループの事業展開その他に関してリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。また、当社グループとしては必ずしも事業上のリスクとは考えていない事項についても、投資家の投資判断上、重要と考えられる事項については投資家に対する情報開示の観点から積極的に開示しております。

当社グループはこれらのリスクの発生可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針ですが、本株式に関する投資判断は、以下の記載事項以外を慎重に判断した上で行われる必要があると考えられます。

文中の将来に関する事項は、本書提出日（平成30年8月24日）現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 当社グループの事業について

#### （人材の確保について）

当社グループの主要事業であるソリューション事業においては、ITエンジニアによる役務及び生産活動が収益の源泉となっており、人材の育成及び優秀な人材の確保が重要な課題であると考えております。当社グループにおきましては、採用活動の強化、研修カリキュラムの充実、雇用条件の改善、全社的なコミュニケーションの積極化等に取り組む方針であります。

しかしながら、他の業界への人材流出等の雇用環境の変化があった場合、当社グループが求める人材が計画どおり採用できなかった場合又は採用した人材が育成できず収益への寄与が計画どおりでなかった場合等は、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

#### （拠点拡大の事業戦略について）

当社グループはソリューション事業において、福岡県福岡市に本社及び研修施設、東京都港区に営業所を設置しております。当面は、この2拠点を中心に事業を拡大してまいりますが、将来的な事業戦略としては、その他の主要地域へのソリューション事業の拡大による支店・営業所の設置、研修施設の設置を考えております。

しかしながら、支店・営業所及び研修施設の設置が行えなかった場合又は設置後ソリューション事業の取引先開拓及びIT人材の募集・育成が行えなかった場合は、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

#### （受託開発プロジェクトにおける採算性について）

当社グループのソリューション事業の中でも受託開発案件は、顧客の要求する品質及び性能のソフトウェアを定められた期日に納めることで収益を得ております。当社グループは、過去において、受注金額の見積りの精査が不十分であったケース、社内生産工程での管理が不十分であったケース等があり、見積り精度の向上やプロジェクト管理の徹底に取り組んでおります。

しかしながら、技術の高度化やシステムの複雑化又は当社グループのプロジェクト管理の不徹底等により、当社グループの採算性の悪化及び顧客からの信用失墜等があった場合は、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

#### （事業環境について）

当社グループの主要事業であるソリューション事業をとりまく情報サービス業界においては、インターネットや携帯電話等の通信インフラの整備・発展を背景とし、企業戦略におけるIT投資の重要性の認識・意欲は底堅く、堅調に推移するものと考えております。しかしながら、消費税の税率改定による景気後退懸念や諸外国の問題から企業がIT投資を急激に減少させることも懸念され、ITエンジニアの過剰供給による業界内での競争激化が進む可能性も考えられます。また、技術の高度化、システムの複雑化に伴い、とりわけ優秀な高度IT人材の慢性的不足という状況も顕著化しております。

このため当社グループは、このような外部環境のもと、業界内での優位性を保つために、「従業員の技術的・知識的満足度の向上」「従業員の収入的満足度の向上」を柱に一層技術の研鑽に努め、お客様の満足度を高めていく方針であります。

### (2) 法的規制について

#### （労働者派遣法について）

当社グループの主要事業であるソリューション事業の派遣登録者の派遣については、「労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の就業条件の整備等に関する法律（以下、「労働者派遣法」という。）」の規制対象であり、厚生労働大臣より派遣事業の許可を受けなければ、派遣登録者の当該派遣事業を営むことができません。当社グループは、平成12年12月1日より一般労働者派遣事業の許可を得ており、当該許可の次回更新時期は平成30年11月30日であります（許可・指定番号：派40-01-0197）。

しかしながら、今後、派遣業種の変更等の法改正があった場合又は欠格要件に抵触することにより許可取り消し等があった場合は、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(社会保険の加入について)

当社グループは、従業員、契約社員、派遣登録者を多く擁しており、社会保険制度の遵守の徹底に取り組んでおります。現在の社会保険加入対象者の加入率は100%であります。

しかしながら、今後、社会保険料率や加入対象範囲等の改定があった場合は、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(3) その他

(個人情報の保護について)

平成17年4月1日の個人情報保護法の施行を契機とし、様々な業種において個人情報の管理が重要視されるようになりました。主に人材の個人情報を取扱う当社グループにおきましても、個人情報の厳重な管理に取り組むとともに、プライバシーマークを取得しております(認定番号:第18820138(06)号)。

しかしながら、故意、過失等による個人情報の漏洩の発生により、社会的信用の失墜や損害賠償請求等があった場合は、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(顧客の機密情報の管理について)

当社グループの主要事業であるソリューション事業においては、リリース前のシステム製品の企画・設計情報や導入技術に関する情報を入手したり、顧客が保有する個人情報を取り扱う可能性があります。当社グループでは、従業員、契約社員及び派遣登録者からの誓約書の徴求、外注会社との契約における機密情報の取扱いに関する定め等により、これらの顧客の重要な機密情報の取扱いに細心の注意を払っております。

また、平成22年12月4日に、情報セキュリティ基本方針に基づき、業務で保有する情報やお客様から提供を受けた情報など重要な情報資産の安全確保や機密保持を行う目的で情報セキュリティマネジメントシステムの国際基準である「ISO/IEC27001:2013」の認証(審査登録証:IA100814、認証範囲:ソリューション事業B to Cソリューショングループ)を取得し、顧客の機密情報の管理を強化いたしました。

しかしながら、故意、過失等による情報漏洩の発生により、顧客からの信用失墜や損害賠償請求等があった場合は、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(特定人物への依存について)

当社代表取締役社長の上野英理也は、事業戦略の立案、営業の推進、各種業務管理等、当社経営の多岐にわたる部分で役割は大きく、依存度は高いものとなっております。当社では、権限委譲や経営陣の育成等を推進することで、上野英理也に過度に依存しない経営体制の構築を目指しております。

しかしながら、離職や疾病等、何らかの理由により同人の職務執行等が困難となった場合は、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

(株式の希薄化について)

当社グループは、士気高揚、業績向上等を目的として、当社グループの取締役に対して、インセンティブプランとしての新株予約権を発行しております。本書提出日(平成30年8月24日)現在、新株予約権の未行使分である潜在株式は144,000株、発行済株式総数909,600株に対する割合は15.83%となっております。

今後これらの潜在株式が顕在化することにより、当社株式の価値の希薄化が発生するほか、株式売買の需給環境や当社グループの株価形成に影響を与える可能性があります。

### 3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

##### 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度における我が国経済は、政府の経済政策や金融政策等の効果により緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、米国政権の今後の動向などによる景気への影響が懸念されるなど、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの属する情報サービス業界では、IT関連投資は引き続き拡大傾向にあり、企業においては、容易に人材が採用出来なくなっていることによる人手不足感が広がっております。

このような環境の中、当社グループでは、エンジニアの技術力の向上、ワークライフバランスの向上を図ることで、優秀な人材の囲い込みに注力いたしました。また、子育て世代の両立支援をはじめ、誰もが働きやすい職場づくりの一環として、平成29年5月より「メディアファイブ保育園薬院」を開園し、地域貢献度の向上にも寄与しております。

主要事業であるソリューション事業B to Bソリューショングループ及びソリューション事業運用・サポートグループは、新規取引先及び既存取引先において、技術力に見合った契約単価交渉を行い一定の成果がみられました。しかしながら、企業における人材の採用が厳しい環境の中、当社においても採用活動に苦戦を強いられております。

ソリューション事業B to Cソリューショングループは、前連結会計年度に引き続き、安定的にシステム開発案件を受注しております。引き続き、中小企業のITを支援する「OFFICE DOCTOR」サービスを軸にワンストップ型ソリューション提案を推し進めております。

工事関連事業は、福岡県の各種テナント・賃貸ビル等の内装工事等を順調に受注しております。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高1,417,063千円（前連結会計年度は1,360,926千円）、売上総利益544,392千円（同500,297千円）、営業利益65,333千円（同44,547千円）、経常利益57,821千円（同33,006千円）、親会社株主に帰属する当期純利益37,123千円（同13,644千円）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりであります。（各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおります。）

##### ソリューション事業B to Bソリューショングループ

ソリューション事業B to Bソリューショングループは、企業における人材の採用が厳しい環境の中、高度IT人材の育成、技術力向上に注力するとともに、技術に見合った契約単価交渉や戦略的な配置転換を行ってまいりました。その結果、当連結会計年度における売上高は906,363千円（前連結会計年度は906,041千円）、セグメント利益は201,728千円（同181,300千円）となりました。

##### ソリューション事業運用・サポートグループ

ソリューション事業運用・サポートグループは、東京地区を中心に、大規模な基幹システムの運用・サポート業務に従事しており、高スキルを背景とした高収益性グループの特色を出し、政策的に営業活動を行っております。その結果、当連結会計年度における売上高は275,484千円（前連結会計年度は263,076千円）、セグメント利益は65,565千円（同55,827千円）となりました。

##### ソリューション事業B to Cソリューショングループ

ソリューション事業B to Cソリューショングループは、前連結会計年度に引き続き、安定的に中規模・小規模のシステム開発案件を受注しており、加えてグループ内での生産性を高めることで高い利益率を確保することが出来ました。また、中小企業のITを支援する比較的ライトな「OFFICE DOCTOR」サービスは、取引社数・取引金額ともに増加しております。その結果、当連結会計年度における売上高は116,630千円（前連結会計年度は99,708千円）、セグメント利益は28,929千円（同10,630千円）となりました。

##### 工事関連事業

工事関連事業は、福岡県の各種テナント・賃貸ビル等の内装工事・外装工事を中心に事業を行っております。当連結会計年度は、既存先への提案型営業を強化し、新規案件獲得の動きに注力いたしました。その結果、当連結会計年度における売上高は102,342千円（前連結会計年度は69,867千円）、セグメント利益は8,184千円（同3,407千円）となりました。

##### 飲食事業

飲食事業は、スイス料理ハウゼの店舗運営に関する事業であります。当連結会計年度における売上高は18,069千円（前連結会計年度は22,556千円）、セグメント損失は4,803千円（同11,923千円）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、273,049千円（前連結会計年度末は276,051千円）となりました。

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローとして、18,981千円の資金を獲得いたしました。（前連結会計年度は14,240千円の獲得）

投資活動によるキャッシュ・フローとして、7,862千円の資金を使用いたしました。（同40,957千円の使用）

財務活動によるキャッシュ・フローとして、14,121千円の資金を使用いたしました。（同14,888千円の使用）

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当連結会計年度を生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日)	前年同期比(%)
ソリューション事業B to Bソリューショングループ(千円)	558,157	97.0
ソリューション事業運用・サポートグループ(千円)	172,582	103.4
ソリューション事業B to Cソリューショングループ(千円)	57,307	112.1
工事関連事業(千円)	66,177	155.4
飲食事業(千円)	19,279	78.5
合計(千円)	873,505	101.5

(注) 1 上記の金額は売上原価によっております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

b. 受注実績

当連結会計年度を受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高	前年同期比(%)	受注残高	前年同期比(%)
ソリューション事業B to Bソリューショングループ(千円)	907,692	100.7	273,667	100.5
ソリューション事業運用・サポートグループ(千円)	264,084	96.4	88,345	88.6
ソリューション事業B to Cソリューショングループ(千円)	92,133	69.7	17,135	41.8
工事関連事業(千円)	124,451	178.1	23,343	27,463.3
合計(千円)	1,388,361	100.8	402,492	97.4

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 飲食事業は受注生産を行っていないため、記載しておりません。

c. 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成29年 6月1日 至 平成30年 5月31日)	前年同期比(%)
ソリューション事業B to Bソリューショングループ(千円)	906,363	100.0
ソリューション事業運用・サポートグループ(千円)	275,484	104.7
ソリューション事業B to Cソリューショングループ(千円)	115,953	116.6
工事関連事業(千円)	101,192	144.9
飲食事業(千円)	18,069	80.1
合計(千円)	1,417,063	104.1

- (注) 1 セグメント間の取引については相殺消去しております。  
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
3 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成28年 6月1日 至 平成29年 5月31日)		当連結会計年度 (自 平成29年 6月1日 至 平成30年 5月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
N S S L C サービス株式会社	253,862	18.7	185,164	13.1

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループは、我が国における一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき連結財務諸表を作成しております。この連結財務諸表の作成に当たりましては、過去の実績や状況に依り合理的と考えられる要因に基づき、見積り及び判断を行っているものがあります。このため、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、見積りと異なる場合があります。

当社グループは、特に以下の重要な会計方針が、当社グループの連結財務諸表の作成において使用される当社の重要な判断と見積りに大きな影響を及ぼすと考えております。

(貸倒引当金)

当社グループでは、債権の貸倒れによる損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。一般債権については貸倒実績率により、また貸倒懸念債権及び破産更生債権等については、個別に回収可能性を勘案して、回収不能見込額を計上しておりますが、顧客の財務状態が悪化し、その支払い能力が低下した場合には、追加の引当計上が必要となる可能性があります。

(繰延税金資産)

企業会計上の資産又は負債の額と課税所得計算上の資産又は負債の額に相違がある場合には、税効果会計に係る会計基準に基づき繰延税金資産・負債を計上しております。

また、繰延税金資産は、将来の課税所得やタックスプランニングに基づき回収可能性について判断しており、繰延税金資産に係る評価性引当は、将来、税務上減算される一時差異及び繰越欠損金等について計上した繰延税金資産のうち、経営者により実現可能性を厳格に判断した上で実現が不確実であると認識される部分について設定しております。経営環境の変化等により将来の課税所得の見積額が変動した場合、繰延税金資産の計上額が変動する可能性があります。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 経営成績等

1) 財政状態

(資産合計)

当連結会計年度末の資産合計は625,562千円(前連結会計年度比19,504千円増)となりました。

流動資産については、現金及び預金273,049千円(同3,002千円減)、売掛金145,711千円(同10,340千円増)等により470,807千円(同13,900千円増)となりましたが、主に売上高の増加によるものであります。

固定資産については、有形固定資産21,828千円(同19,874千円減)、無形固定資産3,943千円(同1,847千円増)、投資その他の資産128,984千円(同23,630千円増)により154,755千円(同5,604千円増)となりました。なお、企業主導型保育事業(整備費)による助成金の収入により取得した有形固定資産について、圧縮記帳しております。

(負債合計)

当連結会計年度末の負債合計は190,263千円(前連結会計年度比12,069千円減)となりました。

流動負債については、未払金14,876千円(同8,989千円減)、未払費用96,893千円(同7,055千円減)、未払消費税等17,662千円(同2,162千円減)、未払法人税等14,901千円(同7,432千円増)等により175,129千円(同13,523千円減)となりました。

固定負債については、15,134千円(同1,453千円増)となりました。

(純資産合計)

当連結会計年度末の純資産合計は435,299千円(前連結会計年度比31,574千円増)となりました。

2) 経営成績

(売上高、売上総利益)

ソリューション事業B to Bソリューショングループは、求人企業における人材の採用が厳しい環境の中、高度IT人材の育成、技術力向上に注力するとともに、技術に見合った契約単価交渉や戦略的な配置転換を行ってまいりました。

ソリューション事業運用・サポートグループにおいては、東京地区を中心に、大規模な基幹システムの運用・サポート業務に従事しており、高スキルを背景とした高収益性グループの特色を出し、政策的に営業活動を行っております。

ソリューション事業B to Cソリューショングループは、前連結会計年度に引き続き、安定的に中規模・小規模のシステム開発案件を受注しており、加えてグループ内での生産性を高めることで高い利益率を確保することが出来ました。また、中小企業のITを支援する比較的ライトな「OFFICE DOCTOR」サービスは、取引社数・取引金額ともに増加しております。

工事関連事業においては、福岡県の各種テナント・賃貸ビル等の内装工事・外装工事を中心に事業を行っており、当連結会計年度は、既存先への提案型営業を強化し、新規案件獲得の動きに注力いたしました。

飲食事業については、スイス料理ハウゼの店舗運営を行っております。

以上により、売上高は1,417,063千円(前連結会計年度は1,360,926千円)、売上原価は872,671千円(同860,628千円)、売上総利益は544,392千円(同500,297千円)となりました。

(営業損益)

ソリューション事業B to Bソリューショングループにおいては、営業体制及びお客様のサポート体制を強化したことにより、販売費及び一般管理費が増加しております。また、当社独自のITエンジニア育成研修(虎の穴研修)については、形式的には人材育成の投資になりますが、人材不足が叫ばれるITエンジニアの増加施策としての役割は大きいと考えており、今後も市場の動向を見ながら拡大したいと考えております。

以上により、販売費及び一般管理費は479,058千円(前連結会計年度は455,749千円)となり、営業利益は65,333千円(同44,547千円)となりました。

(経常損益)

営業外収益は、保育事業収益31,366千円等により32,398千円(前連結会計年度は2,147千円)となり、営業外費用は保育事業費用39,808千円、支払利息89千円等により39,910千円(同13,689千円)となりました。

以上により、経常利益は57,821千円(同33,006千円)となりました。



(税金等調整前当期純損益)

当連結会計年度における特別利益につきましては助成金収入17,115千円等により17,128千円(前連結会計年度は10,668千円)となり、特別損失につきましては、固定資産圧縮損16,732千円、固定資産除却損489千円により、17,222千円(同11,555千円)となりました。

以上により、税金等調整前当期純利益は57,727千円(同32,118千円)となりました。

(親会社株主に帰属する当期純損益)

法人税、住民税及び事業税は19,314千円(前連結会計年度は21,360千円)、法人税等調整額は1,290千円(同2,886千円)となりました。

以上により、親会社株主に帰属する当期純利益は37,123千円(前連結会計年度は13,644千円)となりました。

3) キャッシュ・フロー

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は18,981千円(前連結会計年度は14,240千円)となりました。これは、税金等調整前当期純利益57,727千円、売上債権の増加額10,340千円、未払金の減少額8,237千円、未払費用の減少額7,055千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は7,862千円(同40,957千円)となりました。これは、助成金の受取額17,115千円、有形固定資産の取得3,396千円、無形固定資産の取得2,928千円、従業員に対する貸付による支出16,500千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は14,121千円(同14,888千円)となりました。これは、配当金の支払額6,805千円、長期借入金の返済による支出7,316千円によるものであります。

(現金及び現金同等物の期末残高)

当連結会計年度末における資金は273,049千円(前連結会計年度末は276,051千円)となりました。

(資本の財源及び資金の流動性に係る情報)

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、従業員人件費のほか、営業費用及び法人税等の支払い等によるものであります。投資を目的とした資金需要につきましては、設備投資によるものであり、財務的資金需要は配当金の支払い等であります。

資金調達の状況につきましては、事業継続に必要と考える資金は確保していると認識しております。資金調達は、自己資金による充当を基本としており、営業キャッシュ・フローで獲得した資金を投入し、不足分について有利子負債による調達を実施することとしております。また、現時点において重要な資本支出の予定はありません。

4【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5【研究開発活動】

当連結会計年度における研究開発費の総額は412千円であり、業務効率化向上等のための自社利用ソフトウェアに関する研究開発であります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度における当社グループの設備投資の総額は、4,317千円であり、その主要内容は、保育園設備費434千円、社内ネットワーク用機器等の購入827千円、社内利用ソフトウェア購入908千円、工事関連事業用の社用車の購入1,618千円等であります。なお、前連結会計年度に取得いたしました保育園設備開設に係る助成金追加額があったため、16,732千円を圧縮記帳しております。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

##### (1) 提出会社

当社の各事業所の主要な設備は、以下のとおりであります。

平成30年5月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)
			建物	車両 運搬具	工具、器 具及び備 品	その他	合計	
本社 (福岡県 福岡市 中央区)	ソリューション事業B to Bソリューショングループ ソリューション事業B to Cソリューショングループ 全社(共通)	本社事務所、設備及びパソコン等	4,612	4,161	2,380	16,260	27,415	96 [4]
東京営業所 (東京都 港区)	ソリューション事業B to Bソリューショングループ ソリューション事業運用・サポートグループ	営業所事務所、設備及びパソコン等	-	-	434	3,753	4,187	101 [-]
ハウゼ店舗 (福岡県 福岡市 中央区)	飲食事業	店舗設備	576	-	-	2,666	3,243	- [3]
保育園 (福岡県 福岡市 中央区)		保育園	6,999	-	1,362	6,632	14,995	- [-]

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
2 従業員数は、就業人員であり、契約社員数は[ ]外数で記載しております。  
3 その他については、敷金及び保証金であります。  
4 上記の他、主要な設備のうち他の者から賃借している設備として、以下のものがあります。

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	賃借料 (千円)
本社 (福岡県福岡市中央区)	ソリューション事業B to Bソリューショングループ ソリューション事業B to Cソリューショングループ 全社(共通)	本社事務所	25,356
東京営業所 (東京都港区)	ソリューション事業B to Bソリューショングループ ソリューション事業運用・サポートグループ	営業所事務所	4,504
ハウゼ店舗 (福岡県福岡市中央区)	飲食事業	店舗	3,302
保育園 (福岡県福岡市中央区)		保育園	6,825

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 国内子会社

平成30年5月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (人)
				建物	車両運搬具	その他	合計	
株式会社匠工房	本社 (福岡県福岡市 博多区)	工事関連事業	本社事務 所、パソコン 及び車両等	-	1,456	1,268	2,725	1

- (注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。  
2 従業員数は、就業人員であります。  
3 その他については、敷金等であります。  
4 上記の他、主要な設備のうち他の者から賃借している設備として、以下のものがあります。

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	賃借料 (千円)
株式会社匠工房 本社 (福岡県福岡市博多区)	工事関連事業	本社事務所	2,174

3 【設備の新設、除却等の計画】

- (1)重要な設備の新設  
該当事項はありません。
- (2)重要な設備の除却  
該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,000,000
計	2,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成30年5月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年8月24日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	909,600	909,600	福岡証券取引所 (Q-Board市場)	単元株式数100株
計	909,600	909,600	-	-

(注) 1 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。

2 「提出日現在発行数」欄には、平成30年8月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

#### (2)【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づく新株予約権

(平成18年5月18日臨時株主総会決議)

	事業年度末現在 (平成30年5月31日)	提出日の前月末現在 (平成30年7月31日)
決議年月日	平成18年5月18日	同左
付与対象者の区分及び人数(名)	取締役 (社外取締役を除く) 1 社外取締役 1 監査役 2	同左
新株予約権の数(個)	360	360
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	144,000(注)1	144,000(注)1
新株予約権の行使時の払込金額(円)	1株当たり 500 (注)2	1株当たり 500 (注)2
新株予約権の行使期間	平成21年7月1日から 平成31年6月30日まで	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 500 資本組入額 250	発行価格 500 資本組入額 250
新株予約権の行使の条件	(注)3	(注)3
新株予約権の譲渡に関する事項	(注)4	(注)4
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-	-

(注) 1 当社が株式分割または併合を行う場合、株式の数は、次の算式により調整し、調整により生じる1株未満の端数は切り捨てるものといたします。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割または併合の比率

2 行使時に払込をすべき金額は、株式分割または併合を行う場合、及び権利付与日以降に当社が時価を下回る価額で新株を発行する場合または自己株式を処分する場合には、次の算式により1株当たりの払込金額を調整し、調整により生じる1円未満の端数は切り上げます。

(株式の分割または併合を行う場合)

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{1}{\text{分割または併合の比率}}$$

(時価を下回る払込金額で新株を発行する場合)

$$\text{調整後払込金額} = \text{調整前払込金額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たりの払込金額}}{\text{新規発行前の株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

- 3 新株予約権の発行時において、当社取締役、監査役、従業員の場合権利行使時においても、当社の取締役、監査役及び従業員の地位にあることを要します。ただし、当社の取締役及び監査役を任期満了により退任した場合、当社取締役会において認められる場合には、この限りではありません。
- 4 新株予約権を譲渡するには、取締役会の承認を要します。
- 5 平成18年6月22日開催の取締役会決議に基づき、平成18年7月16日付をもって1株を2株に株式分割いたしました。これにより、新株予約権の目的となる株式の数、新株予約権の行使時の払込金額、新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額が調整されております。
- 6 平成25年4月19日開催の取締役会決議に基づき、平成25年6月1日付をもって1株を200株に株式分割いたしました。これにより、新株予約権の目的となる株式の数、新株予約権の行使時の払込金額、新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額が調整されております。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
平成25年6月1日 (注)1	889,132	893,600	-	175,825	-	141,525
平成28年5月30日 (注)2	16,000	909,600	4,000	179,825	4,000	145,525

(注)1 平成25年6月1日付をもって1株を200株に株式分割し、発行済株式数が889,132株増加しております。

2 新株予約権の行使による増加であります。

## (5) 【所有者別状況】

平成30年5月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	1	1	11	-	-	275	288	-
所有株式数(単元)	-	91	26	1,096	-	-	7,883	9,096	-
所有株式数の割合(%)	-	1.00	0.29	12.05	-	-	86.66	100.00	-

(注) 自己株式46,000株は、「個人その他」の460単元を含めて記載しております。

## (6) 【大株主の状況】

平成30年5月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
上野 英理也	福岡県福岡市早良区	241,100	27.92
メディアファイブ社員持株会	福岡市中央区薬院一丁目1番1号	81,100	9.39
スリープログループ株式会社	東京都新宿区西新宿七丁目21-3 西新宿大京ビル	44,400	5.14
株式会社トライアンフコーポレーション	東京都新宿区西新宿七丁目20-1 住友不動産西新宿ビル18階	41,300	4.78
秀島 正博	福岡県福岡市中央区	39,000	4.52
村山 孝	東京都江戸川区	37,800	4.38
野本 豊	神奈川県横須賀市	23,600	2.73
稲田 清崇	長野県松本市	21,500	2.49
鈴木 伸幸	東京都江東区	21,400	2.48
村山 滋	福岡県宗像市	19,800	2.29
計	-	571,000	66.12



( 7 ) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

平成30年 5月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式 (自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式 (その他)	-	-	-
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 46,000	-	-
完全議決権株式 (その他)	普通株式 863,600	8,636	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	909,600	-	-
総株主の議決権	-	8,636	-

【自己株式等】

平成30年 5月31日現在

所有者の氏名又は 名称	所有者の住所	自己名義所有株 式数 (株)	他人名義所有株 式数 (株)	所有株式数の合 計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
メディアファイ ブ株式会社	福岡県福岡市中 央区薬院一丁目 1番1号	46,000		46,000	5.06
計	-	46,000		46,000	5.06

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

該当事項はありません。

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他				
保有自己株式数	46,000		46,000	

### 3【配当政策】

当社は、株主の皆様に対する配当での利益還元を経営の重要課題と位置づけております。当社は、利益配当金につきましては、事業成長に必要なかつ十分な内部留保を維持する政策をとりながら、当社の経営成績及び財政状態等を総合的に判断し、株主の皆様に対し、配当での利益還元を積極的に実施していくことを基本方針としております。

内部留保資金につきましては、事業拡大を目的とした中長期的な事業原資として利用していく予定であります。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当社は「取締役会の決議により、11月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

このような方針のもと、当事業年度に係る剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成30年8月23日 定時株主総会決議	8,636	10

### 4【株価の推移】

#### (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第18期	第19期	第20期	第21期	第22期
決算年月	平成26年5月	平成27年5月	平成28年5月	平成29年5月	平成30年5月
最高(円)	385	573	550	546	1,050
最低(円)	251	292	415	440	450

(注) 最高・最低株価は、福岡証券取引所Q - B o a r d市場におけるものであります。

#### (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成29年12月	平成30年1月	2月	3月	4月	5月
最高(円)	1,050	970	890	910	1,046	970
最低(円)	851	827	800	812	845	857

(注) 最高・最低株価は、福岡証券取引所Q - B o a r d市場におけるものであります。

5【役員の状況】

男性8名 女性1名 (役員のうち女性の比率11.1%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役社長	-	上野 英理也	昭和34年9月17日生	昭和60年4月 タウ技研株式会社(現 株式会社 ユビテック)入社 昭和63年10月 アイテル株式会社入社 平成6年3月 日本電算株式会社入社 平成8年6月 当社設立、代表取締役社長就任 平成19年6月 当社代表取締役社長兼開発本部長 就任 平成21年6月 当社代表取締役社長兼S I事業部 長兼経営情報室長就任 平成22年6月 当社代表取締役社長就任 平成23年6月 当社代表取締役社長兼S I本部長 就任 平成24年6月 当社代表取締役社長就任 平成27年6月 当社代表取締役社長兼採用・育成 本部長就任 平成28年6月 当社代表取締役社長兼B t o Bソ リューション本部長就任 平成29年6月 当社代表取締役社長兼B t o Cソ リューション本部長就任(現任)	注3	241,100
取締役	-	辻 俊彦	昭和35年4月17日生	昭和59年4月 住友不動産株式会社入社 平成元年3月 エヌイーディー株式会社(現 安 田企業投資株式会社)入社 平成8年2月 九州建設株式会社入社 平成11年2月 ジャパンメディアシステム株式会 社入社 平成12年2月 株式会社パソナテック入社 平成13年6月 住信インベストメント株式会 社入社 平成14年8月 当社社外取締役就任 平成17年6月 株式会社イーツリーズ・ジャパン 社外取締役就任(現任) 平成20年6月 株式会社ジェイキャスト入社 平成21年2月 サイファー・テック株式会社取締 役就任 平成22年6月 P C Iホールディングス株式会 社入社 平成26年8月 当社社外取締役就任(現任)	注3	
取締役	-	稲田 清崇	昭和23年9月13日生	昭和51年4月 住友金属工業株式会社(現 新日 鐵住金株式会社)中央技術研究所 入社 平成10年4月 株式会社アイスリーコム取締役就 任 平成12年7月 株式会社住友金属システムソ リューションズ(現 キヤノンIT ソリューションズ株式会社)執行 役員事業部長就任 平成22年7月 株式会社アイスリーコム代表取締 役就任 当社入社。シニアアドバイザー就 任 平成23年4月 ESETビジネスデベロップメント ディレクター就任 平成28年8月 当社取締役就任 平成29年7月 当社取締役経営戦略担当就任(現 任)	注3	21,500

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	管理本部長 兼社長室長	河野 活	昭和46年4月20日生	平成8年4月 財団法人日本缶詰検査協会（現 一般財団法人食品環境検査協会） 入社 平成11年5月 双葉産業株式会社入社 平成12年7月 碓井町商工会（現 嘉麻市商工 会）入所 平成18年12月 当社入社 平成21年6月 当社S I 事業部部長就任 平成24年6月 当社内部監査室長就任 平成25年6月 当社B t o Bソリューション本部 部長就任 平成25年9月 当社内部監査室長兼社長室長就任 平成26年6月 当社管理本部長兼社長室長就任 平成27年8月 株式会社匠工房取締役就任（現 任） 平成27年8月 株式会社ダブルスキル代表取締役 会長就任 平成27年8月 当社取締役管理本部長兼社長室長 就任（現任） 平成28年3月 株式会社ダブルスキル清算人就任	注3	7,200
取締役	B t o Bソリュー ション本部長	久多見 旭	昭和53年11月13日生	平成13年4月 当社入社 平成20年12月 当社技術本部部長就任 平成21年6月 当社S I 事業部部長就任 平成23年6月 当社S I 本部ソリューショング ループ長就任 平成24年6月 当社B t o Cソリューション本部 部長就任 平成26年8月 当社取締役B t o Cソリューシ ョン本部長就任 平成29年6月 当社取締役B t o Bソリューシ ョン本部長就任（現任）	注3	9,200
取締役	運用・サポート 本部長	中須 龍二	昭和49年4月18日生	平成13年7月 当社入社 平成19年6月 当社S E S 本部長就任 平成19年9月 当社執行役員S E S 本部長就任 平成20年6月 当社執行役員技術本部長就任 平成21年6月 当社執行役員S E S 事業部東京本 部長就任 平成22年6月 当社S I 事業部部長就任 平成23年6月 当社S I 本部Bakoon!!グループ長 就任 平成24年6月 当社B t o Cソリューション本部 部長就任 平成26年6月 当社運用・サポート本部長就任 平成27年8月 当社取締役運用・サポート本部長 就任（現任）	注3	15,000

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
常勤監査役	-	的野 雅一	昭和18年7月6日生	昭和42年4月 株式会社西日本相互銀行（現株式会社西日本シティ銀行）入行 平成9年6月 株式会社サニックス常勤監査役就任 平成10年7月 三洋信販株式会社（現プロミス株式会社）入社 平成15年6月 同社常勤監査役就任 平成20年8月 当社社外監査役就任（現任）	注4	8,400
監査役	-	秀島 正博	昭和31年8月22日生	昭和55年10月 監査法人中央会計事務所入所 昭和59年4月 公認会計士登録 平成7年7月 秀島公認会計士事務所設立 代表者（現任） 平成7年8月 税理士登録 平成11年7月 当社社外監査役就任 平成16年12月 日本乾溜工業株式会社社外監査役就任 平成19年3月 鳥越製粉株式会社社外監査役就任（現任） 平成20年8月 当社社外監査役退任、当社社外取締役就任 平成26年8月 当社社外取締役退任、当社監査役就任（現任） 平成27年12月 日本乾溜工業株式会社社外取締役就任（現任）	注5	39,000
監査役	-	榎本 美穂	昭和49年9月23日生	平成16年11月 司法試験合格 平成17年4月 司法研修所入所 平成18年10月 弁護士登録 鴻和法律事務所入所 平成20年4月 財務省福岡財務支局入局 平成22年8月 新星法律事務所入所（現任） 平成28年8月 当社社外監査役就任（現任）	注4	
計						341,400

- (注) 1 取締役辻俊彦は、社外取締役であります。
- 2 監査役的野雅一、監査役榎本美穂は、社外監査役であります。
- 3 取締役の任期は、平成30年8月23日以後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査役的野雅一、監査役榎本美穂の任期は、平成28年8月25日以後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役秀島正博の任期は、平成30年8月23日以後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までであります。

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、コーポレート・ガバナンスを重要課題として認識しており、透明性の高い健全なコーポレート・ガバナンス体制及び企業倫理の構築に向け、鋭意改善努力を行っております。また、コンプライアンスの徹底、経営の透明性と公正性の向上及び環境変化への機敏な対応と競争力の強化を目指しております。

#### コーポレート・ガバナンスに関する施策の実施状況

##### (取締役会)

取締役会は、取締役6名で構成されております。定時の取締役会は、毎月1回開催しており、必要に応じ臨時取締役会を適宜開催しております。取締役会においては、経営上の重要事項は全て審議され、業績の進捗状況等についても詳細な報告が行われております。

##### (監査役会)

当社は監査役会制度を採用しており、現在常勤監査役1名(社外監査役)、非常勤監査役2名(うち社外監査役1名)の3名体制となっております。監査役は、取締役会に出席して、独立的な立場からの意見具申を行うほか、内部監査や監査法人と連携をとった業務監査及び会計監査を行っております。

##### (内部監査)

社長直属の内部監査室(専任者1名)を設置し、年間監査計画に基づき、法令、定款及び社内規程の遵守状況や職務執行の手続き及び内容の妥当性につき内部監査を実施しております。監査結果は随時社長に報告され、必要に応じて被監査部門に対して是正・改善指導を行っております。

##### (監査の状況)

当社は監査業務を三優監査法人に委嘱しております。当事業年度において監査業務を執行した公認会計士の氏名、監査業務に係る補助者の構成は、以下のとおりであります。

業務を執行した公認会計士の氏名

吉川 秀嗣、大神 匡

監査業務に係る補助者の構成

公認会計士3名

##### (社外取締役及び社外監査役との関係)

当社の取締役のうち1名は、社外取締役であります。また、当社の監査役のうち2名は、社外監査役であります。

取締役辻俊彦は、株式会社イーツリーズ・ジャパン社外取締役を兼務しております。なお、当社と株式会社イーツリーズ・ジャパンとの間には、特別な関係はございません。

また、社外監査役の野雅一につきましては、過去に他社の役員でありましたが、当社と当該他社との間には、特別な利害関係はございません。

監査役榎本美穂は、新星法律事務所に所属しておりますが、当社と当該事務所の間には、特別な利害関係はございません。

社外取締役及び社外監査役の選任状況に関する当社の考えは以下のとおりであります。

取締役辻俊彦は、他社の取締役に就任していた経緯から、経営の経験が豊富だと判断したためであります。

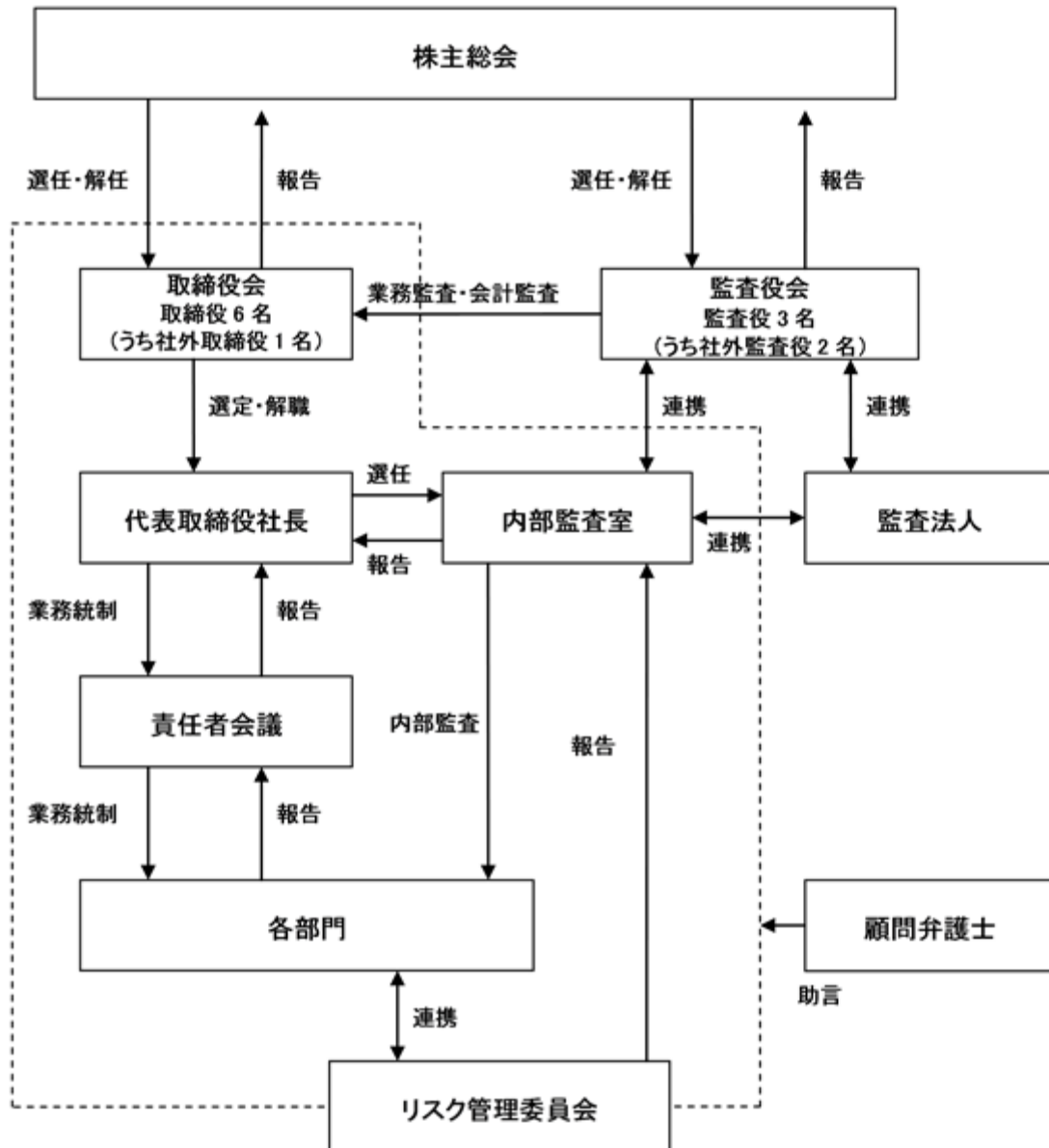
監査役野雅一は、他社にて長年監査役として培ってきた知識及び経験等を当社監査体制の強化に活かしていただくためであります。なお、監査役野雅一は、当社株式8,400株(議決権比率0.97%)を保有しております。

監査役榎本美穂は、会社経営に関与した経験はありませんが、弁護士であり、その知識及び経験等を当社監査体制に活かしていただくためであります。

##### (社外取締役及び社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準又は方針の内容)

当社は、社外取締役又は社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針として明確に定めたものではありませんが、その選任に際しては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣から独立した立場で社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを個別に判断しております。

当社の業務執行の体制、監査及び内部統制の仕組み





(内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況)

平成19年9月28日の取締役会において、会社法(会社法第362条第4項第6号、会社法第362条第5項、会社法施行規則第100条)に基づき、「内部統制システムの基本方針」を決議し、同基本方針に従いリスク管理体制の充実強化を図るなど内部統制整備を進めて参りました。また、現状における実施内容を踏まえ、平成21年8月26日、平成24年7月20日及び平成27年4月17日に所要の変更を追加決議し、その取り組みも含め整備しております。

内部統制システムの基本方針は次のとおりであります。

( ) 当社及び子会社からなる企業集団(以下、「当社グループという。’)の取締役・使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

内部監査室を設置し、当社及び子会社の内部監査を定期的実施することで、各部門の活動状況が法令及び定款に適合することを確保するとともに、社内諸規程及び運用マニュアルに準じて業務が適正及び効率的に行われていることの検証を行う。加えて、当社代表取締役社長に内部監査状況を報告することで、当社代表取締役社長は改善指示を行う。また、当社監査役は重要な会議に積極的に出席するとともに、独立的な意見具申を行うほか、内部監査室や監査法人と連携をとり業務監査や会計監査を行う。

( ) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務の執行に係る情報に関しては、法令や文書管理規程をはじめとする社内規程に従い、文書又は電磁的媒体に記録し、保管及び管理を行う。取締役及び監査役は、常時これらの文書を閲覧できる。

( ) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社グループの横断的なリスク状況の監視は、当社のリスク管理委員会を中心に全部署が連携して行うとともに、リスク管理規程及び職務権限規程に基づく権限の範囲内で、各部門の所管業務に付随するリスク管理は、当委員会が行う。また、リスク管理の観点から、適宜社内規程の制定及び改定を実施する。内部監査室はこれらの適切性、有効性を確認する。

( ) 当社グループの取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社グループでは、迅速かつ確な経営判断を行うため、毎月1回の取締役会を開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催する。また、業務の適正な運営と効率化を図るため、取締役会の下に取締役及び各部門責任者等から組織される責任者会議を設置することで、職務が常に適正かつ効率的に執行できる体制をとる。

( ) 当社グループにおける業務の適正を確保するための体制

当社は、子会社の経営意思を尊重しつつ、当社取締役が当該子会社の取締役を兼務するとともに、一定の事項については当社に報告を求め、必要に応じて当社が当該子会社に対し助言を行うことにより経営管理を行う。また、毎月定期的に開催される取締役会において、子会社の業務執行の状況を報告することに加え、内部監査室の内部監査により、子会社の業務が適切に運営されていることを確認することで、業務の適正を確保する。

( ) 監査役を補助すべき使用人に関する事項、当該使用人の取締役からの独立性に関する事項、当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

当社は、必要に応じ監査役が求めた場合には監査役の業務補助のための監査役スタッフを置くこととし、そのスタッフは、もっぱら監査役の指揮命令に従わなければならない。また、当該監査役スタッフの任命・解任・人事異動、人事評価及び賃金等の改定については、監査役の同意を得た上で取締役会において決定するものとし、取締役会からの独立性を確保する。

( ) 当社及び子会社の取締役及び使用人等が監査役に報告するための体制、その他の監査役への報告に関する体制、報告したことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

当社及び子会社の取締役又は使用人等は、当社監査役に対して、法定の事項に加え、当社及び子会社に重大な影響を及ぼす事項、内部監査の実施状況を遅滞、遺漏なく報告する。また、監査役監査に必要とする事項に関しても、適宜報告を行う。

当社は、当社監査役への報告を行った当社グループの役員及び従業員に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を当社グループの役員及び従業員に周知徹底する。

当社は、当社監査役がその職務を執行するにあたり必要な費用の支出を求めた場合、当該監査役の請求に応じてこれを支出する。会社は、当該請求に係る費用又は債務が当該監査役の職務の執行に必要なことを証明した場合を除き、これを拒むことはできないものとする。

( ) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役は、代表取締役社長及び各取締役との意見交換を定期的に行うとともに、当社の重要な意思決定のプロセス及び業務の執行状況を把握するため、取締役会をはじめその他の重要な会議へ出席する。また、会計監査を行っている監査法人から随時報告を受ける場を設けるとともに、監査に関する情報交換を積極的に行う。

( ) 財務報告に係る内部統制の整備及び運用に関する体制

管理本部及び内部監査室は、当社の財務報告の信頼性を担保し、金融庁より2006年6月に公布された金融商品取引法第24条の4の4に規定する内部統制報告書の提出を有効かつ適切に行うため、代表取締役社長の指示の下、財務報告に係る内部統制を整備し、運用する体制構築を行う。

また、取締役会は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用に対して監督責任を有し、その整備状況及び運用状況を監視する。

( )反社会的勢力排除に向けた体制

管理本部を統括部署とし、反社会的勢力からの利益供与や民事介入等の不当要求に屈しない体制を構築する。新規取引先との取引開始に際しては、外部調査機関を活用し排除を行う。株主の属性判断に際しては、所轄警察署及び福岡県警察本部、顧問弁護士等の外部専門機関と連携することで、反社会的勢力への対策を整備する。また、福岡県企業防衛対策協議会に所属し、定期的に反社会的勢力に対する各種の指導を受けるとともに、情報の共有化を積極的に行う。不良情報等は、管理本部から全社へ伝達することにより、全社的に反社会的勢力に対して有効かつ迅速な対応を図る。

役員報酬等

当社は、株主総会の決議をもって報酬の総額の上限を定め、その範囲内で「役員報酬規程」に基づき、「取締役会」で個人別報酬額を定めております。

当事業年度における当社の役員区分ごとの報酬等の総額及び対象となる役員の員数は以下のとおりであります。

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役(社外取締役を除く。)	54,570	54,570				6
監査役(社外監査役を除く。)	3,555	3,555				1
社外役員	17,167	17,167				3

- (注) 1 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。  
 2 取締役の報酬限度額は、平成28年8月25日開催の第20期定時株主総会において年額100,000千円以内(但し、使用人分給与は含まない。)と承認されております。  
 3 監査役の報酬限度額は、平成28年8月25日開催の第20期定時株主総会において年額30,000千円以内と承認されております。  
 4 使用人兼務取締役の使用人分給与のうち、重要なものは次のとおりであります。

総額	対象となる取締役の員数(人)	内容
16,230千円	4	従業員としての給与であります。

責任限定契約の内容の概要

当社と監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は会社法第425条第1項に定める最低責任限度額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意かつ重大な過失がないときに限られます。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

取締役の定数

当社の取締役は、10名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び選任決議については累積投票によらない旨定款に定めております。また、解任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

株式の保有状況

保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

区分	前事業年度 (千円)	当事業年度(千円)			
	貸借対照表 計上額の合計額	貸借対照表 計上額の合計額	受取配当金 の合計額	売却損益 の合計額	評価損益 の合計額
非上場株式	0	0			
上記以外の株式	55,620	60,060	300		

株主総会決議事項を取締役会で決議できるとした事項

(自己株式の取得)

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議により、市場取引等により自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。これは、機動的な資本政策の実施を可能とすることを目的とするものであります。

(中間配当)

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議により、毎年11月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元の実施を可能とすることを目的とするものであります。

(損害賠償責任の一部免除)

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって、取締役(取締役であった者を含む。)及び監査役(監査役であった者を含む。)の任務を怠ったことによる損害賠償責任を、法令が定める範囲で免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

(2)【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく 報酬(千円)	非監査業務に基づく報 酬(千円)	監査証明業務に基づく 報酬(千円)	非監査業務に基づく報 酬(千円)
提出会社	10,200	-	10,200	-
連結子会社	-	-	-	-
計	10,200	-	10,200	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

監査報酬の決定に先立ち、監査法人から監査の方法、日数等を含む監査計画及び当該計画に基づく監査報酬額の提示を受け、当該計画及び報酬の額の妥当性について、当社の事業規模及び業務内容に鑑み、監査業務が適切に遂行されるための十分な監査時間が確保されているか、効率的な監査業務が実施されるか等の観点で検討し、監査法人と協議のうえ監査報酬を決定します。なお、監査報酬の最終的な決定にあたっては、取締役会の承認を得ることとしております。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成29年6月1日から平成30年5月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成29年6月1日から平成30年5月31日まで)の財務諸表について、三優監査法人により監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、監査法人との連携や各種セミナー等への積極的な参加を行っております。

1【連結財務諸表等】  
(1)【連結財務諸表】  
【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年5月31日)	当連結会計年度 (平成30年5月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	276,051	273,049
売掛金	135,371	145,711
仕掛品	1,988	4,487
原材料及び貯蔵品	1,124	1,190
未収入金	6,223	8,648
前払費用	8,563	8,715
繰延税金資産	29,303	28,114
その他	1,631	3,558
貸倒引当金	3,351	2,668
流動資産合計	456,906	470,807
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	40,617	24,809
減価償却累計額	10,905	12,776
建物(純額)	1 29,711	1 12,032
車両運搬具	12,578	12,479
減価償却累計額	6,220	6,861
車両運搬具(純額)	6,358	5,618
工具、器具及び備品	19,784	21,972
減価償却累計額	14,150	17,795
工具、器具及び備品(純額)	5,633	4,177
有形固定資産合計	41,703	21,828
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	2,095	1,923
ソフトウェア仮勘定	-	2,020
無形固定資産合計	2,095	3,943
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	55,620	60,060
長期前払費用	8,203	11,262
敷金及び保証金	36,286	36,225
従業員に対する長期貸付金	2,395	15,420
その他	2,847	6,014
投資その他の資産合計	105,353	128,984
固定資産合計	149,151	154,755
資産合計	606,057	625,562

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年5月31日)	当連結会計年度 (平成30年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	9,416	11,238
1年内返済予定の長期借入金	7,316	-
未払金	23,865	14,876
未払費用	103,948	96,893
未払法人税等	7,469	14,901
未払消費税等	19,825	17,662
前受金	2,741	2,205
預り金	14,035	17,184
その他	34	167
流動負債合計	188,653	175,129
固定負債		
繰延税金負債	13,680	15,134
固定負債合計	13,680	15,134
負債合計	202,333	190,263
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	179,825	179,825
資本剰余金	145,525	145,525
利益剰余金	50,061	78,548
自己株式	8,823	8,823
株主資本合計	366,588	395,075
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	37,136	40,223
その他の包括利益累計額合計	37,136	40,223
純資産合計	403,724	435,299
負債純資産合計	606,057	625,562

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年6月1日 至 平成30年5月31日)
売上高	1,360,926	1,417,063
売上原価	860,628	872,671
売上総利益	500,297	544,392
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	18,931	17,574
役員報酬	72,675	84,592
従業員給料	125,561	143,632
従業員賞与	27,933	30,156
法定福利費	30,417	35,191
旅費及び交通費	21,954	20,142
地代家賃	28,310	29,578
減価償却費	6,240	4,153
支払報酬	13,924	14,187
貸倒引当金繰入額	2,867	682
その他	106,933	100,531
販売費及び一般管理費合計	455,749	1,479,058
営業利益	44,547	65,333
営業外収益		
受取利息	5	422
受取配当金	-	300
保育事業収益	1,741	31,366
雑収入	400	310
営業外収益合計	2,147	32,398
営業外費用		
支払利息	191	89
保育事業費用	13,440	39,808
雑損失	56	12
営業外費用合計	13,689	39,910
経常利益	33,006	57,821
特別利益		
固定資産売却益	-	2,13
助成金収入	5,10,668	5,17,115
特別利益合計	10,668	17,128
特別損失		
固定資産除却損	3,13	3,489
固定資産圧縮損	5,10,668	5,16,732
減損損失	4,873	-
特別損失合計	11,555	17,222
税金等調整前当期純利益	32,118	57,727
法人税、住民税及び事業税	21,360	19,314
法人税等調整額	2,886	1,290
法人税等合計	18,474	20,604
当期純利益	13,644	37,123
親会社株主に帰属する当期純利益	13,644	37,123

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年6月1日 至 平成30年5月31日)
当期純利益	13,644	37,123
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,460	3,087
その他の包括利益合計	1 1,460	1 3,087
包括利益	12,184	40,210
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	12,184	40,210
非支配株主に係る包括利益	-	-



【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	179,825	145,525	45,049	8,823	361,576
当期変動額					
剰余金の配当	-	-	8,636	-	8,636
親会社株主に帰属する 当期純利益	-	-	13,644	-	13,644
連結範囲の変動	-	-	3	-	3
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	5,011	-	5,011
当期末残高	179,825	145,525	50,061	8,823	366,588

	その他の包括利益累計額		非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差 額金	その他の包括利益累計 額合計		
当期首残高	38,596	38,596	130	400,303
当期変動額				
剰余金の配当	-	-	-	8,636
親会社株主に帰属する 当期純利益	-	-	-	13,644
連結範囲の変動	-	-	130	126
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	1,460	1,460	-	1,460
当期変動額合計	1,460	1,460	130	3,421
当期末残高	37,136	37,136	-	403,724

当連結会計年度（自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	179,825	145,525	50,061	8,823	366,588
当期変動額					
剰余金の配当	-	-	8,636	-	8,636
親会社株主に帰属する 当期純利益	-	-	37,123	-	37,123
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	28,487	-	28,487
当期末残高	179,825	145,525	78,548	8,823	395,075

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券評価差 額金	その他の包括利益累計 額合計	
当期首残高	37,136	37,136	403,724
当期変動額			
剰余金の配当	-	-	8,636
親会社株主に帰属する 当期純利益	-	-	37,123
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	3,087	3,087	3,087
当期変動額合計	3,087	3,087	31,574
当期末残高	40,223	40,223	435,299

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年6月1日 至 平成30年5月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	32,118	57,727
減価償却費	7,838	7,142
貸倒引当金の増減額(は減少)	2,467	682
受取利息及び受取配当金	5	722
支払利息	191	89
固定資産売却損益(は益)	-	13
固定資産除却損	13	489
固定資産圧縮損	10,668	16,732
助成金収入	10,668	17,115
減損損失	873	-
売上債権の増減額(は増加)	1,016	10,340
たな卸資産の増減額(は増加)	1,479	2,564
仕入債務の増減額(は減少)	745	1,822
未払費用の増減額(は減少)	14,212	7,055
未払消費税等の増減額(は減少)	6,043	2,162
未払金の増減額(は減少)	7,001	8,237
その他	1,534	5,159
小計	57,415	29,951
利息及び配当金の受取額	5	721
利息の支払額	189	87
法人税等の支払額	42,991	11,604
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,240	18,981
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	37,782	3,396
無形固定資産の取得による支出	1,867	2,928
助成金の受取額	10,668	17,115
敷金及び保証金の差入による支出	9,007	942
会員権の取得による支出	-	3,167
従業員に対する貸付けによる支出	3,000	16,500
従業員に対する貸付金の回収による収入	30	1,956
投資活動によるキャッシュ・フロー	40,957	7,862
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	8,004	7,316
配当金の支払額	6,884	6,805
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,888	14,121
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	41,605	3,002
現金及び現金同等物の期首残高	317,656	276,051
現金及び現金同等物の期末残高	1 276,051	1 273,049

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数及び名称

1社  
株式会社匠工房

(2) 非連結子会社の名称等

該当事項はありません。

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額は、収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)によっております。

原材料及び貯蔵品

先入先出法による原価法(貸借対照表価額は、収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

定率法によっております。

但し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備については、定額法によっております。

なお、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、費用処理しております。

ソフトウェア

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。

一般債権

貸倒実績率法によっております。

貸倒懸念債権及び破産更生債権等

個別に回収可能性を勘案して回収不能見込額を計上しております。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

請負工事に係る収益の計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事  
工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を採用しております。  
その他の工事  
工事完成基準を採用しております。

(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なり스크し  
か負わない取引日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

（未適用の会計基準等）

- ・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会）
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日 企業会計基準委員  
会）

(1) 概要

国際会計基準審議会（IASB）及び米国財務会計基準審議会（FASB）は、共同して収益認識に関する包括的な会計  
基準の開発を行い、平成26年5月に「顧客との契約から生じる収益」（IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいて  
はTopic606）を公表しており、IFRS第15号は平成30年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は平成29年12  
月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する  
包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性  
を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発  
点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合  
には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

平成34年5月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり  
ます。

(連結貸借対照表関係)

1 圧縮記帳額

国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年5月31日)	当連結会計年度 (平成30年5月31日)
圧縮記帳額	10,668千円	16,732千円
(うち、建物附属設備)	10,668千円	16,732千円

2 当座貸越契約

当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行と当座貸越契約を締結しております。連結会計年度末における当座貸越契約に係る借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年5月31日)	当連結会計年度 (平成30年5月31日)
当座貸越限度額	100,000千円	100,000千円
借入実行残高	- 千円	- 千円
差引額	100,000千円	100,000千円

(連結損益計算書関係)

1 一般管理費用に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日)
	- 千円	412千円

2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日)
車両運搬具	- 千円	13千円

3 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日)
工具、器具及び備品	13千円	0千円
車両運搬具	-	44
ソフトウェア	-	444
計	13	489

4 減損損失

前連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類
福岡県福岡市中央区	店舗用品	器具及び備品

当社グループは、事業セグメントを基礎とし、管理会計上の単位ごとにグルーピングをおこなっております。

前連結会計年度において、収益環境が厳しい状況が続いております飲食事業の用に供しての資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(873千円)として特別損失に計上しました。なお、回収可能価額は正味売却価額としておりますが、売却又は転用が不可能な資産のため、正味売却価額を零としております。

5 助成金収入及び固定資産圧縮損

前連結会計年度及び当連結会計年度における助成金収入は企業主導型保育事業(整備費)による助成額であり、固定資産圧縮損は当該助成金により取得した固定資産の圧縮記帳に係るものであります。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日)
その他有価証券評価差額金:		
当期発生額	2,100千円	4,440千円
組替調整額	-	-
税効果調整前	2,100	4,440
税効果額	639	1,352
その他有価証券評価差額金	1,460	3,087
その他の包括利益合計	1,460	3,087

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末株 式数(株)
発行済株式				
普通株式	909,600	-	-	909,600
合計	909,600	-	-	909,600
自己株式				
普通株式	46,000	-	-	46,000
合計	46,000	-	-	46,000

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権 の目的とな る株式の種 類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 (親会社)	ストック・オプションと しての新株予約権	-	-	-	-	-	-
	合計	-	-	-	-	-	-

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年8月25日 定時株主総会	普通株式	8	10	平成28年5月31日	平成28年8月26日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年8月24日 定時株主総会	普通株式	8	利益剰余金	10	平成29年5月31日	平成29年8月25日



当連結会計年度（自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数（株）	当連結会計年度増加 株式数（株）	当連結会計年度減少 株式数（株）	当連結会計年度末株 式数（株）
発行済株式				
普通株式	909,600	-	-	909,600
合計	909,600	-	-	909,600
自己株式				
普通株式	46,000	-	-	46,000
合計	46,000	-	-	46,000

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権 の目的とな る株式の種 類	新株予約権の目的となる株式の数（株）				当連結会計 年度末残高 （千円）
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 （親会社）	ストック・オプションと しての新株予約権	-	-	-	-	-	-
	合計	-	-	-	-	-	-

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成29年 8月24日 定時株主総会	普通株式	8	10	平成29年 5月31日	平成29年 8月25日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	配当の原資	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成30年 8月23日 定時株主総会	普通株式	8	利益剰余金	10	平成30年 5月31日	平成30年 8月24日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日）	当連結会計年度 （自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日）
現金及び預金勘定	276,051千円	273,049千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	276,051	273,049

(リース取引関係)

該当事項はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については、経営状況が健全な金融機関の短期性の預金等に限定しており、短期的な運転資金については、自己資金及び銀行借入により調達しております。なお、デリバティブ取引及び投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金及び未収入金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、市場価格のある株式及び業務上の関係を有する未上場企業の株式であり、市況や企業価値の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金及び未払金は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。

長期借入金は、主に運転資金の調達を目的としたものであります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権については、与信管理規程に従い、管理本部及び各事業部門における営業担当者が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、また、満期保有目的の債券以外のものについては、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

各部署からの報告に基づき管理本部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（平成29年5月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	276,051	276,051	-
(2) 売掛金	135,371	135,371	-
(3) 未収入金	6,223	6,223	-
(4) 投資有価証券	55,620	55,620	-
(5) 従業員貸付金	2,969	2,969	-
資産計	476,234	476,234	-
(1) 買掛金	9,416	9,416	-
(2) 未払金	23,865	23,865	-
(3) 未払法人税等	7,469	7,469	-
(4) 未払消費税等	19,825	19,825	-
(5) 長期借入金	7,316	7,303	12
負債計	67,892	67,880	12

当連結会計年度（平成30年5月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	273,049	273,049	-
(2) 売掛金	145,711	145,711	-
(3) 未収入金	8,648	8,648	-
(4) 投資有価証券	60,060	60,060	-
(5) 従業員貸付金	17,512	17,011	501
資産計	504,981	504,480	501
(1) 買掛金	11,238	11,238	-
(2) 未払金	14,876	14,876	-
(3) 未払法人税等	14,901	14,901	-
(4) 未払消費税等	17,662	17,662	-
負債計	58,678	58,678	-

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金、(3) 未収入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(5) 従業員貸付金（1年以内回収予定の従業員短期貸付金を含む。）

貸付金の時価については、同様の新規貸付を行った場合に想定される利率により、元利金の合計額を割り引いて算定する方法によっております。

負 債

(1) 買掛金、(2) 未払金、(3) 未払法人税等、(4) 未払消費税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (平成29年5月31日)	当連結会計年度 (平成30年5月31日)
敷金及び保証金	36,286	36,225

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象としておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額  
前連結会計年度（平成29年5月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	276,051	-	-	-
売掛金	135,371	-	-	-
未収入金	6,223	-	-	-
従業員貸付金	573	2,395	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
(1) 国債・地方債等	-	-	-	-
(2) 社債	-	-	-	-
その他有価証券のうち満期があるもの				
その他	-	-	-	-
合計	418,219	2,395	-	-

当連結会計年度（平成30年5月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	273,049	-	-	-
売掛金	145,711	-	-	-
未収入金	8,648	-	-	-
従業員貸付金	2,091	8,232	7,187	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
(1) 国債・地方債等	-	-	-	-
(2) 社債	-	-	-	-
その他有価証券のうち満期があるもの				
その他	-	-	-	-
合計	429,501	8,232	7,187	-

4. 長期借入金の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度(平成29年5月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	7,316	-	-	-	-	-

当連結会計年度(平成30年5月31日)  
該当事項はありません。

(有価証券関係)  
その他有価証券

前連結会計年度(平成29年5月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	55,620	4,600	51,020
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	55,620	4,600	51,020
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		55,620	4,600	51,020

(注) 1 非上場株式(貸借対照表計上額0千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2 表中の「取得原価」は、減損処理後の帳簿価額であります。

当連結会計年度(平成30年5月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	60,060	4,600	55,460
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	60,060	4,600	55,460
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		60,060	4,600	55,460

(注) 1 非上場株式(貸借対照表計上額0千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2 表中の「取得原価」は、減損処理後の帳簿価額であります。

(デリバティブ取引関係)

当社グループはデリバティブ取引を全く行っておりませんので該当事項はありません。

(退職給付関係)

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	平成18年5月 ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社の取締役 1名
株式の種類別のストック・オプションの数	普通株式 160,000株
付与日	平成18年5月31日
権利確定条件	権利行使時において当社ならびに当社子会社の取締役、監査役及び従業員の地位にあること。ただし、当社ならびに当社子会社の取締役及び監査役を任期満了により退任した場合、当社取締役会において認められる場合には、この限りではない。
対象勤務期間	3年1ヶ月間 (自平成18年5月31日 至平成21年6月30日)
権利行使期間	平成21年7月1日から 平成31年6月30日まで

(注) 平成18年7月16日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行ったこと及び平成25年6月1日付で普通株式1株につき200株の株式分割を行ったことに伴い、ストック・オプション数は分割後の数値によっております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度（平成30年5月31日）において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	平成18年5月 ストック・オプション
権利確定前（株）	
前連結会計年度末	-
付与	-
失効	-
権利確定	-
未確定残	-
権利確定後（株）	
前連結会計年度末	144,000
権利確定	-
権利行使	-
失効	-
未行使残	144,000

単価情報

	平成18年5月 ストック・オプション
権利行使価格（円）	500
行使時平均株価（円）	-
単位当たりの本源的価値（付与日） （円）	0

（注）平成18年7月16日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行ったこと及び平成25年6月1日付で普通株式1株につき200株の株式分割を行ったことに伴い、ストック・オプションの数及び権利行使価格は分割後の数値によっております。

2. ストック・オプションの権利確定数の見積り方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しています。



(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年5月31日)	当連結会計年度 (平成30年5月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	1,013千円	740千円
貯蔵品	79	67
未払事業所税	337	300
未払事業税	917	1,630
未払費用	27,615	25,774
一括償却資産	93	149
電話加入権	308	308
投資有価証券	1,657	1,657
その他	1,591	1,648
繰延税金資産小計	33,616	32,276
評価性引当額	4,070	4,060
繰延税金資産合計	29,546	28,216
繰延税金負債		
未収事業税	39	-
その他有価証券評価差額金	13,883	15,236
繰延税金負債合計	13,923	15,236
繰延税金資産(負債)の純額	15,622	12,980

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産及び繰延税金負債の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年5月31日)	当連結会計年度 (平成30年5月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	29,303千円	28,114千円
固定負債 - 繰延税金負債	13,680	15,134

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年5月31日)	当連結会計年度 (平成30年5月31日)
法定実効税率	30.7%	30.7%
(調整)		
住民税等均等割税額	3.7	1.7
交際費等永久に損金に算入されない項目	20.9	10.8
評価性引当額の増減	3.9	0.2
期首未払法人税等の戻し	-	3.1
税額控除	-	2.9
その他	1.8	1.3
税効果会計適用後の法人税等の負担率	57.5	35.7

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当社グループでは、主に不動産賃貸借契約に基づく退去時における原状回復に係る債務を資産除去債務として認識しております。なお、資産除去債務の負債計上に代えて、不動産賃貸借契約に関する敷金及び保証金について、回収が最終的に見込めないと認められる金額(賃借建物の原状回復費用)を合理的に見積り、そのうち当連結会計年度の負担に属する金額を費用計上する方法によっております。

また、当連結会計年度の負担に属する金額は、見込まれる入居期間に基づいて算定しております。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するため、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、本社、東京営業所及び関連会社にサービス別の事業部門を設置し、各事業部門は、取り扱うサービスについて包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、事業部門を基礎としたサービス別のセグメントから構成されており、「ソリューション事業B to Bソリューショングループ」、「ソリューション事業運用・サポートグループ」、「ソリューション事業B to Cソリューショングループ」、「工事関連事業」及び「飲食事業」を報告セグメントとしております。

「ソリューション事業B to Bソリューショングループ」は、プログラマ、システムエンジニア等のITエンジニアを顧客へ提供し、業務支援を行う事業です。

「ソリューション事業運用・サポートグループ」は、東京地区を中心に、大規模なシステムの運用・サポート業務を行う事業です。

「ソリューション事業B to Cソリューショングループ」は、顧客が要求するシステムについて、ソフトウェア開発を受託する事業です。

「工事関連事業」は、株式会社匠工房による、各種テナント・賃貸ビル等の建設設計・管理並びに施工・内装工事・外装工事等を行う事業です。

「飲食事業」は、スイス料理ハウゼの店舗運営に関する事業です。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)

(単位:千円)

	ソリューション事業 B to Bソリューション グループ	ソリューション事業 運用・サポート グループ	ソリューション事業 B to Cソリューション グループ	工事関連事業	飲食事業	合計
売上高						
外部顧客への売上高	906,041	263,076	99,428	69,822	22,556	1,360,926
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	279	44	-	324
計	906,041	263,076	99,708	69,867	22,556	1,361,250
セグメント利益又はセグメント損失( )	181,300	55,827	10,630	3,407	11,923	239,242
セグメント資産	110,296	24,710	13,183	40,112	4,037	192,340
その他の項目						
減価償却費	1,726	588	695	-	426	3,436
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	-	-	753	-	235	988

当連結会計年度(自 平成29年6月1日 至 平成30年5月31日)

(単位:千円)

	ソリューション事業 B to Bソリューション グループ	ソリューション事業 運用・サポート グループ	ソリューション事業 B to Cソリューション グループ	工事関連事業	飲食事業	合計
売上高						
外部顧客への売上高	906,363	275,484	115,953	101,192	18,069	1,417,063
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	676	1,149	-	1,826
計	906,363	275,484	116,630	102,342	18,069	1,418,890
セグメント利益又はセグメント損失( )	201,728	65,565	28,929	8,184	4,803	299,605
セグメント資産	101,886	41,280	24,607	50,132	4,914	222,821
その他の項目						
減価償却費	1,020	334	976	161	48	2,541
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	-	-	827	1,618	625	3,070

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	1,361,250	1,418,890
セグメント間取引消去	324	1,826
連結財務諸表の売上高	1,360,926	1,417,063

（単位：千円）

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	239,242	299,605
セグメント間取引消去	1,200	910
全社費用（注）	195,894	235,181
連結財務諸表の営業利益	44,547	65,333

（注） 全社費用は、各報告セグメントに配分していない一般管理費であります。

（単位：千円）

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	192,340	222,821
セグメント間取引消去	94	627
全社資産（注）	413,812	403,368
連結財務諸表の資産合計	606,057	625,562

（注） 全社資産は、各報告セグメントに配分していない全社資産及び管理部門の資産であります。

(単位：千円)

その他の項目	報告セグメント計		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	3,436	2,541	4,401	4,600	7,838	7,142
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	988	3,070	29,492	1,247	30,481	4,317

(注) 調整額は、以下のとおりであります。

減価償却費の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社資産及び管理部門の資産に係る減価償却費、未実現利益の調整額であります。

有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社資産及び管理部門の資産の増加額、未実現利益の調整額であります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報の中に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
N S S L C サービス株式会社	253,862	ソリューション事業B to Bソリューショングループ、ソリューション事業運用・サポートグループ

当連結会計年度（自 平成29年 6 月 1 日 至 平成30年 5 月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報の中に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
N S S L C サービス株式会社	185,164	ソリューション事業運用・サポートグループ

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年 6 月 1 日 至 平成29年 5 月31日）

(単位：千円)

	ソリューション事業B to Bソリューショングループ	ソリューション事業運用・サポートグループ	ソリューション事業B to Cソリューショングループ	工事関連事業	飲食事業	全社・消去	合計
減損損失	-	-	-	-	873	-	873

当連結会計年度（自 平成29年 6 月 1 日 至 平成30年 5 月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年 6 月 1 日 至 平成29年 5 月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年 6 月 1 日 至 平成30年 5 月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成28年 6 月 1 日 至 平成29年 5 月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成29年 6 月 1 日 至 平成30年 5 月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引  
該当事項はありません。
  
2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記  
該当事項はありません。

(開示対象特別目的会社関係)

該当事項はありません。

( 1株当たり情報 )

	前連結会計年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日)
1株当たり純資産額	467.49円	504.05円
1株当たり当期純利益金額	15.80円	42.99円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	15.58円	40.49円

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年 5月31日)	当連結会計年度 (平成30年 5月31日)
純資産の部の合計額(千円)	403,724	435,299
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	-	-
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	403,724	435,299
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	863,600	863,600

2. 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)	当連結会計年度 (自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日)
( 1株当たり当期純利益金額 )		
親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	13,644	37,123
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益金額(千円)	13,644	37,123
期中平均株式数(株)	863,600	863,600
( 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 )		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	12,132	53,323
( うち新株予約権(株) )	( 12,132 )	( 53,323 )
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	-	-

( 重要な後発事象 )

投資有価証券の売却

当社は、平成30年7月25日開催の取締役会において、当社が保有する投資有価証券を売却することを決議いたしました。これによる損益に与える影響は、売却手続きを実行中のため未確定であります。



【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	7,316	-	-	-
1年以内に返済予定のリース債務	-	-	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	7,316	-	-	-

【資産除去債務明細表】

資産除去債務については、資産除去債務の負債計上に代えて、不動産賃貸借契約における敷金及び保証金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当連結会計年度の負担に属する金額を費用に計上する方法によっているため、該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	337,013	694,141	1,050,373	1,417,063
税金等調整前四半期(当期)純利益金額 又は税金等調整前四半期純損失金額( )(千円)	3,572	12,645	30,456	57,727
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益金額 又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額( ) (千円)	2,972	6,748	16,777	37,123
1株当たり四半期(当期)純利益金額 又は1株当たり四半期純損失金額( )(円)	3.44	7.81	19.43	42.99

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額( )(円)	3.44	11.26	11.61	23.56

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年5月31日)	当事業年度 (平成30年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	243,370	239,171
売掛金	130,729	136,200
仕掛品	1,686	2,151
原材料	434	533
貯蔵品	439	437
前払費用	8,355	8,520
未収入金	6,189	8,648
立替金	757	1,422
繰延税金資産	29,143	27,653
その他	873	2,135
貸倒引当金	3,323	2,425
流動資産合計	418,657	424,448
固定資産		
有形固定資産		
建物	40,617	24,809
減価償却累計額	10,905	12,620
建物(純額)	1 29,711	1 12,189
車両運搬具	11,480	10,860
減価償却累計額	5,122	6,699
車両運搬具(純額)	6,358	4,161
工具、器具及び備品	19,784	21,972
減価償却累計額	14,150	17,795
工具、器具及び備品(純額)	5,633	4,177
有形固定資産合計	41,703	20,528
無形固定資産		
ソフトウェア	2,095	1,923
ソフトウェア仮勘定	-	2,020
無形固定資産合計	2,095	3,943
投資その他の資産		
投資有価証券	55,620	60,060
関係会社株式	8,450	8,450
長期前払費用	8,203	11,262
敷金及び保証金	34,517	34,447
従業員に対する長期貸付金	2,395	15,420
その他	2,847	6,014
投資その他の資産合計	112,034	135,656
固定資産合計	155,833	160,127
資産合計	574,490	584,576

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年5月31日)	当事業年度 (平成30年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	751	563
1年内返済予定の長期借入金	6,000	-
未払金	23,665	14,662
未払費用	103,151	95,821
未払法人税等	7,146	13,155
未払消費税等	19,116	16,610
前受金	2,819	2,283
預り金	13,737	16,790
その他	34	167
流動負債合計	176,423	160,055
固定負債		
繰延税金負債	13,680	15,134
固定負債合計	13,680	15,134
負債合計	190,103	175,190
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	179,825	179,825
資本剰余金		
資本準備金	145,525	145,525
資本剰余金合計	145,525	145,525
利益剰余金		
利益準備金	40	40
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	30,682	52,594
利益剰余金合計	30,723	52,635
自己株式	8,823	8,823
株主資本合計	347,250	369,162
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	37,136	40,223
評価・換算差額等合計	37,136	40,223
純資産合計	384,386	409,386
負債純資産合計	574,490	584,576

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)	当事業年度 (自 平成29年6月1日 至 平成30年5月31日)
売上高	1,291,383	1,316,548
売上原価	818,051	807,327
売上総利益	473,331	509,220
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	18,863	17,506
役員報酬	64,275	75,292
従業員給料	122,501	140,276
従業員賞与	27,133	28,941
法定福利費	28,217	32,936
旅費及び交通費	21,378	19,198
地代家賃	26,136	27,403
減価償却費	6,240	4,005
支払報酬	13,792	13,939
貸倒引当金繰入額	2,907	897
その他	101,984	94,512
販売費及び一般管理費合計	433,430	453,115
営業利益	39,900	56,105
営業外収益		
受取利息	5	421
受取配当金	-	300
業務受託料	1,200	1,200
保育事業収益	1,741	31,366
雑収入	400	55
営業外収益合計	3,347	33,343
営業外費用		
支払利息	155	83
保育事業費用	13,440	39,808
その他	38	-
営業外費用合計	13,634	39,891
経常利益	29,613	49,557
特別利益		
助成金収入	4,10,668	4,17,115
特別利益合計	10,668	17,115
特別損失		
固定資産除却損	2,13	2,489
固定資産圧縮損	4,10,668	4,16,732
減損損失	3,873	-
特別損失合計	11,555	17,222
税引前当期純利益	28,726	49,449
法人税、住民税及び事業税	20,680	17,309
法人税等調整額	2,844	1,591
法人税等合計	17,836	18,901
当期純利益	10,889	30,547

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)		当事業年度 (自 平成29年6月1日 至 平成30年5月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費		12,733	1.5	13,992	1.7
労務費		793,599	96.6	779,221	96.0
外注費		1,659	0.2	4,446	0.6
経費		13,953	1.7	13,938	1.7
当期総製造費用		821,946	100.0	811,598	100.0
期首仕掛品たな卸高		458		1,686	
合計		822,404		813,284	
期末仕掛品たな卸高		1,683		2,151	
他勘定振替高		2,669		3,805	
売上原価		818,051		807,327	

(注) 経費の主な内容は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日)	当事業年度 (自 平成29年6月1日 至 平成30年5月31日)
	金額(千円)	金額(千円)
地代家賃	6,317	6,923
減価償却費	1,407	1,417
レンタル料	927	1,259
旅費交通費	1,027	753

(原価計算の方法)

当社の原価計算は、実際原価による個別原価計算であります。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日）

（単位：千円）

	株主資本							自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金					
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
当期首残高	179,825	145,525	145,525	40	28,429	28,469	8,823	344,996	
当期変動額									
剰余金の配当	-	-	-	-	8,636	8,636	-	8,636	
当期純利益	-	-	-	-	10,889	10,889	-	10,889	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-	-	
当期変動額合計	-	-	-	-	2,253	2,253	-	2,253	
当期末残高	179,825	145,525	145,525	40	30,682	30,723	8,823	347,250	

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	38,596	38,596	383,593
当期変動額			
剰余金の配当	-	-	8,636
当期純利益	-	-	10,889
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,460	1,460	1,460
当期変動額合計	1,460	1,460	793
当期末残高	37,136	37,136	384,386

当事業年度（自 平成29年6月1日 至 平成30年5月31日）

（単位：千円）

	株主資本							自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金					
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
当期首残高	179,825	145,525	145,525	40	30,682	30,723	8,823	347,250	
当期変動額									
剰余金の配当	-	-	-	-	8,636	8,636	-	8,636	
当期純利益	-	-	-	-	30,547	30,547	-	30,547	
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-	-	
当期変動額合計	-	-	-	-	21,911	21,911	-	21,911	
当期末残高	179,825	145,525	145,525	40	52,594	52,635	8,823	369,162	

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	37,136	37,136	384,386
当期変動額			
剰余金の配当	-	-	8,636
当期純利益	-	-	30,547
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3,087	3,087	3,087
当期変動額合計	3,087	3,087	24,999
当期末残高	40,223	40,223	409,386

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

(2) 仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額は、収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)によっております。

(3) 原材料

先入先出法による原価法(貸借対照表価額は、収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)によっております。

(4) 貯蔵品

先入先出法による原価法(貸借対照表価額は、収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)によっております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法によっております。

但し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備については、定額法によっております。

なお、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、費用処理しております。

(2) ソフトウェア

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。

一般債権

貸倒実績率法によっております。

貸倒懸念債権及び破産更生債権等

個別に回収可能性を勘案して回収不能見込額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

請負工事に係る収益の計上基準

(1) 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事

工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を採用しております。

(2) その他の工事

工事完成基準を採用しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。



(貸借対照表関係)

1 圧縮記帳額

国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年5月31日)	当事業年度 (平成30年5月31日)
圧縮記帳額	10,668千円	16,732千円
(うち、建物附属設備)	10,668千円	16,732千円

2 当座貸越契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行と当座貸越契約を締結しております。事業年度末における当座貸越契約に係る借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年5月31日)	当事業年度 (平成30年5月31日)
当座貸越限度額	100,000千円	100,000千円
借入実行残高	- 千円	- 千円
差引額	100,000千円	100,000千円

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)	当事業年度 (自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日)
関係会社からの業務受託料	1,200千円	1,200千円

2 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成28年 6月 1日 至 平成29年 5月31日)	当事業年度 (自 平成29年 6月 1日 至 平成30年 5月31日)
工具、器具及び備品	13千円	0千円
車両運搬具	-	44
ソフトウェア	-	444
計	13	489

3 減損損失の内容は以下のとおりであります。

前事業年度において、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類
福岡県福岡市中央区	店舗用品	器具及び備品

当社は、事業セグメントを基礎とし、管理会計上の単位ごとにグルーピングをおこなっております。

前事業年度において、収益環境が厳しい状況が続いております飲食事業の用に供してる資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(873千円)として特別損失に計上しました。なお、回収可能価額は正味売却価額としておりますが、売却又は転用が不可能な資産のため、正味売却価額を零としております。

4 助成金収入及び固定資産圧縮損

前事業年度及び当事業年度における助成金収入は企業主導型保育事業(整備費)による助成額であり、固定資産圧縮損は当該助成金により取得した固定資産の圧縮記帳に係るものであります。

(有価証券関係)

子会社株式(貸借対照表計上額は8,450千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年5月31日)	当事業年度 (平成30年5月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	1,013千円	740千円
貯蔵品	79	67
未払事業所税	337	300
未払事業税	917	1,450
未払費用	27,439	25,493
一括償却資産	93	66
電話加入権	254	254
投資有価証券	1,657	1,657
その他	1,569	1,648
繰延税金資産小計	33,363	31,678
評価性引当額	4,016	3,923
繰延税金資産合計	29,347	27,755
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	13,883	15,236
繰延税金負債合計	13,883	15,236
繰延税金資産(負債)の純額	15,463	12,518

(注) 前事業年度及び当事業年度における繰延税金資産及び繰延税金負債の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前事業年度 (平成29年5月31日)	当事業年度 (平成30年5月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	29,143千円	27,653千円
固定負債 - 繰延税金負債	13,680	15,134

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年5月31日)	当事業年度 (平成30年5月31日)
法定実効税率	30.7%	30.7%
(調整)		
住民税均等割税額	4.0	1.8
交際費等永久に損金に算入されない項目	23.3	12.6
評価性引当額の増減	4.5	0.0
期首未払法人税等の戻し		3.6
税額控除		3.1
その他	0.4	0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	62.1	38.2

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

投資有価証券の売却

当社は、平成30年7月25日開催の取締役会において、当社が保有する投資有価証券を売却することを決議いたしました。これによる損益に与える影響は、売却手続きを実行中のため未確定であります。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	40,617	925	16,732	24,809	12,620	1,714	12,189
車両運搬具	11,480		619	10,860	6,699	2,151	4,161
工具、器具及び備品	21,147	1,036	210	21,972	17,795	2,491	4,177
有形固定資産計	73,244	1,961	17,563	57,643	37,115	6,358	20,528
無形固定資産							
ソフトウェア	8,232	908	1,025	8,115	6,192	635	1,923
ソフトウェア仮勘定		2,020		2,020			2,020
無形固定資産計	8,232	2,928	1,025	10,135	6,192	635	3,943
長期前払費用	8,203	3,815	756	11,262			11,262

(注) 当期増減額のうち主なものは次のとおりであります。

建物

増加額：ハウゼ空調625千円、保育園ガラスフィルムシート300千円

減少額：保育園設備圧縮記帳額16,732千円

車両運搬具

減少額：社用バイク処分619千円

工具、器具及び備品

増加額：社内ネットワーク用機器等の購入827千円、保育園備品の設置・購入209千円

減少額：社内ネットワーク用機器の除却210千円

ソフトウェア

増加額：会計システムのアップグレード版購入908千円

減少額：会計システムの除却1,025千円

ソフトウェア仮勘定

増加額：社内利用システムの作成2,020千円

長期前払費用

増加額：生命保険の加入1,775千円、データセンター運営費用2,031千円

減少額：データセンター運営費用690千円

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	3,323	2,425		3,323	2,425

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、一般債権の貸倒実績率による洗替額及び債権回収による戻入額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	6月1日から5月31日まで
定時株主総会	8月中
基準日	5月31日
剰余金の配当の基準日	11月30日 5月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	-
株主名簿管理人	-
取次所	-
買取手数料	-
公告掲載方法	電子公告により行う。但し電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="http://www.media5.co.jp/">http://www.media5.co.jp/</a>
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 1 単元未満株式の買取りにつきましては、平成25年6月1日以降、次のとおりとなっております。

取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 買取手数料 無料

2 当社定款の定めにより、単元未満株主は、次の権利以外の権利を有しておりません。

- ・会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- ・取得請求権付株式の取得を請求する権利
- ・募集株式又は募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第21期）（自 平成28年6月1日 至 平成29年5月31日）平成29年8月25日福岡財務支局長に提出。

#### (2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成29年8月25日福岡財務支局長に提出。

#### (3) 四半期報告書及び確認書

第22期第1四半期（自 平成29年6月1日 至 平成29年8月31日）平成29年10月13日福岡財務支局長に提出。

第22期第2四半期（自 平成29年9月1日 至 平成29年11月30日）平成30年1月12日福岡財務支局長に提出。

第22期第3四半期（自 平成29年12月1日 至 平成30年2月28日）平成30年4月13日福岡財務支局長に提出。

#### (4) 臨時報告書

平成29年8月25日福岡財務支局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

#### (5) 四半期報告書の訂正報告書及び確認書

平成30年1月18日福岡財務支局長に提出

第22期第2四半期（自 平成29年9月1日 至 平成29年11月30日）の四半期報告書に係る訂正報告書及びその確認書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成30年 8月23日

メディアファイブ株式会社

取締役会 御中

### 三優監査法人

指 定 社 員 公認会計士 吉川 秀嗣 印  
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公認会計士 大神 匡 印  
業 務 執 行 社 員

#### <財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているメディアファイブ株式会社の平成29年6月1日から平成30年5月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

#### 連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、メディアファイブ株式会社及び連結子会社の平成30年5月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。



#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、メディアファイブ株式会社の平成30年5月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、メディアファイブ株式会社が平成30年5月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

平成30年8月23日

メディアファイブ株式会社

取締役会 御中

### 三優監査法人

指 定 社 員 公認会計士 吉川 秀嗣 印  
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公認会計士 大神 匡 印  
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているメディアファイブ株式会社の平成29年6月1日から平成30年5月31日までの第22期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、メディアファイブ株式会社の平成30年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。